

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構
令和元年度業務実績等報告書

令和2年6月

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構

目

次

1	法人の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	報告の実施根拠法・・・・・・・・・・・・・・・・	1
3	報告の対象・・・・・・・・・・・・・・・・	1
4	報告の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・	2
5	評価方法の概要（評価基準）・・・・・・・・	2
6	自己評価結果・・・・・・・・	2
	（1）総合的な評定・・・・・・・・	2
	（2）中期目標期間における財務情報及び人員に関する情報・・・・・・・・	3
	（3）年度計画の項目毎の評定	
	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	3
	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	4
	第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	4
	第4 短期借入金の限度額	5
	第5 剰余金の使途	5
	第6 料金に関する事項	5
	第7 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	6
	令和元年度の業務実績に関する評価基準	7
	令和元年度 業務実績 項目別自己評価シート	8

1 法人の概要

- | | | |
|-------------|-----|---------------------------------------|
| (1) 法人名等 | 名 称 | 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 |
| | 代 表 | 理事長 栗 谷 義 樹 |
| | 住 所 | 山形県酒田市あきほ町 30 番地 |
| (2) 設立年月日 | | 平成 20 年 4 月 1 日 |
| (3) 設立団体 | | 山形県及び酒田市 |
| (4) 資本金の額 | | 187 億 9731 万 29 円（平成 31 年 3 月 31 日変更） |
| (5) 中期目標の期間 | | 平成 28 年度から令和元年度まで（4 年間） |
| (6) 目的及び業務 | | |

ア 目 的

地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究等を行うことにより、庄内地域等の医療政策として求められる高度専門医療の提供及び当該地域における医療水準の向上を図り、もって住民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

イ 業 務

- ① 医療の提供に関すること。
- ② 医療に関する調査及び研究に関すること。
- ③ 医療に関する技術者の研修に関すること。
- ④ 医療に関する地域への支援に関すること。
- ⑤ 災害時における医療救護に関すること。
- ⑥ 前各号に掲げる業務に附帯する業務に関すること。

2 報告の実施根拠法

地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）第 28 条 第 2 項

3 報告の対象

令和元年度における地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の年度計画に対する実績の状況

※年度計画・・・中期計画に基づき、当該年度における業務運営に関する計画を定めたもの

4 報告の趣旨

地方独立行政法人法の規定に基づき、地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構（以下「病院機構」という。）が、日本海総合病院、日本海酒田リハビリテーション病院及び日本海八幡クリニック等診療所を運営するにあたり、住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上及び業務運営の効率化等について自ら評価を行う。

5 評価方法の概要

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 令和元年度の業務実績に関する評価基準（別紙のとおり）

6 自己評価結果

（1）総合的な評定

ア 概況

日本海総合病院においては、救命救急センターや地域医療支援病院等の指定を受ける地域の中核病院として、専門医を配置するなど、安全で高度かつ専門的な急性期医療を提供した。

特に、DPC 特定病院群の適用の維持による医療の質の向上や、病床の削減及び病床融通を行い地域医療構想の推進に取り組んだ。

日本海酒田リハビリテーション病院は、休日を含めたリハビリテーションの実施、通所リハビリテーションの定員増及び訪問リハビリテーションを開始するなど地域のニーズに応じた回復期・慢性期医療を提供した。

日本海八幡クリニック等診療所は、それぞれの地域における唯一の医療機関として、日常的な病気やけが等の患者に一次医療を提供した。訪問看護については、訪問看護ステーションの指定を受け、更に医療法人宏友会と統合を図り、円滑な移行に努め、地域に訪問看護を提供した。

また、就労環境等の整備においては、医事クラーク、認定看護師等の適所配置、院内保育所の 24 時間保育、病児・病後児保育の継続及び患者ニーズを踏まえた勤務時間帯の見直しなど、スタッフの確保と業務負担軽減への取り組みを積極的に行った。

さらに、地域医療連携推進法人日本海ヘルスケアネットの中心的役割を担い、地域の医療機関をはじめ、保健、福祉、介護の各機関との連携の推進を図り、効果的な業務運営を行った。

イ 患者動向及び収支について

別添資料のとおり（令和元年度決算の概況について）

ウ 評価した項目数

総項目数 98 項目【評価 S : 2、A : 11、B : 85、C : 0、D : 0】

エ 全体評価

令和元年度計画における業務実績及び業務運営については、概ね計画どおり実施されたものとして評価する。

(2) 中期目標期間における財務情報及び人員に関する情報

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
総収益（百万円）	20,003	21,322	22,244	22,718
総費用（百万円）	19,417	20,515	21,500	22,279
純利益（百万円）	587	808	744	439
常勤職員数（人）	1,040	1,061	1,104	1,112

※（3）の項目ごとに算出することが困難であるため、全体の情報を記載。

(3) 年度計画の項目毎の評定

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

ア 評 定 B「年度計画に対する実績は概ね計画に合致している。」

イ 理 由

病院及び診療所による医療機能の分担と地域医療連携推進法人内での連携等により、効率的かつ効果的な業務運営を図りながら、地域の医療水準の向上に努めた。

ウ 評価した項目

① 項目数 72 項目 【評価 S : 2、A : 9、B : 61、C : 0、D : 0】

② 特筆すべき項目

- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に備えて病床の確保等、医療提供体制の整備に努めた。
- ・ 専門医制度において、内科、産婦人科、外科の基幹施設として、専攻医の採用及びプログラムの管理運営を行った。
- ・ 他の医療機関との役割分担及び連携により、紹介率・逆紹介率に係る、地域医療支援病院指定要件の目標値を大幅に上

回った。

- ・地域の医療機関等との連携を充実させるため、「地域医療連携推進法人日本海ヘルスケアネット」に参画し、地域フォーミュラの実施など中心的役割を担った。
- ・入退院支援センターの運用開始により、スムーズな入院体制の構築を図るとともに、入院前から多職種の連携による患者のリスク把握及び評価とよりよい入院・治療計画の提供に努めた。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

ア 評 定 B「年度計画に対する実績は概ね計画に合致している。」

イ 理 由

- ・診療体制の強化や、診療報酬改定等の変化に迅速に対応するなど、収益の確保に努めた。
- ・それぞれの目標においては、病院及び診療所によって目標値を下回る項目もあるが、法人全体として概ね達成できたものと評価する。

ウ 評価した項目

① 項目数 8項目 【評価 S：0、A：0、B：8、C：0、D：0】

② 特筆すべき項目

- ・日本海総合病院では、1日あたりの入院患者数が目標値を下回ったが、他の目標値に関しては目標を達成した。
- ・日本海酒田リハビリテーション病院では、入院及び外来診療単価については目標を達成した。
- ・新たな施設基準(胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術、内視鏡手術用支援機器を用いる場合等)の取得による増収を図った。

第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

ア 評 定 B「年度計画に対する実績は概ね計画に合致している。」

イ 理 由

日本海総合病院、日本海酒田リハビリテーション病院及び診療所を含む病院機構全体で、営業収支比率と経常収支比率の目標を達成した。

ウ 評価した項目

① 項目数 1項目 【評価 S：0、A：0、B：1、C：0、D：0】

② 特筆すべき項目

病院機構全体で、営業収支比率 102.2%、経常収支比率 102.2%と目標値を上回った。(各目標値 100%)

第4 短期借入金の限度額

ア 評 定 A「年度計画に対する実績は計画を上回っている。」

イ 理 由

短期借入金の実績なし。

ウ 評価した項目

① 項目数 1項目 【評価 S : 0、A : 1、B : 0、C : 0、D : 0】

② 特筆すべき項目

計画的な資金収支に努めたため、短期借入金の必要がなかった。

第5 剰余金の使途

ア 評 定 A「年度計画に対する実績は計画を上回っている。」

イ 理 由

決算剰余金については、建設改良積立金に充当し将来の施設整備及び医療機器の整備に備えた。

ウ 評価した項目

① 項目数 1項目 【評価 S : 0、A : 1、B : 0、C : 0、D : 0】

② 特筆すべき項目

病院施設の整備に充てるため建設改良積立金に充当した。

第6 料金に関する事項

ア 評 定 B「年度計画に対する実績は概ね計画に合致している。」

イ 理 由

病院機構の規定に基づき料金徴収を行った。

ウ 評価した項目

① 項目数 2項目 【評価 S : 0、A : 0、B : 2、C : 0、D : 0】

② 特筆すべき項目

病院機構の規定に基づき適切に使用料を徴収した。

第7 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

ア 評 定 B「年度計画に対する実績は概ね計画に合致している。」

イ 理 由

職員の就労環境の整備として、認定看護師や専門薬剤師等の資格手当の支給等、職員のモチベーションの向上に努めた。また、職員一人ひとりがそれぞれの分野で専門知識や能力を十分に発揮できるよう、多職種によるチーム医療の推進に努めた。

ウ 評価した項目

① 項目数 13項目 【評価 S：0、A：0、B：13、C：0、D：0】

② 特筆すべき項目

- ・ 周術期管理チームの発足やカンサーボードの開催等、多職種によるチーム医療の推進に努めた。
- ・ 職員が業務に専念できるよう、院内保育所及び病児・病後児保育事業を継続して実施した。

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 令和元年度の業務実績に関する評価基準

1 令和元年度業務の実績に関する評価の基本方針

令和元年度計画の業務の実績について自己評価を行う。

2 業務の実績に関する評価の方法

計画に掲げた項目ごとに行う「項目別評価」と業務実績全体の状況について行う「全体評価」の2つを併せて行うものとする。

(1) 項目別評価は、年度計画の個別項目毎の進捗状況について、下記により評価するものとする。

① 業務の実施状況を幅広く把握し、可能な限り客観的な評価の実施に努める。

- ・目標数値がある場合はその達成度合い、定性的な目標の場合は具体的な業務実績を把握して評価する。
- ・業務実績については、その数量だけでなく、その質についても考慮する。
- ・業務実績に影響を及ぼした要因、予期せぬ事情の変化等についても考慮する。

② 判定基準として以下の5段階で評価し、原則としてその理由を付記する。

(判定基準)

「S」：計画を大幅に上回っている

「A」：計画を上回っている

「B」：計画に概ね合致している

「C」：計画をやや下回っている

「D」：計画を下回っており、大幅な改善が必要

(2) 全体評価

全体評価は、(1)の項目別評価の結果を踏まえ、全体的な計画の進行状況や達成について、記述式等により評価するものとする。

令和元年度 業務実績 項目別自己評価シート

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 業務実績項目別自己評価シート

自己評価基準 「S」:計画を大幅に上回っている 「A」:計画を上回っている 「B」:計画に概ね合致している 「C」:計画をやや下回っている 「D」:計画を下回っており、大幅な改善が必要

第3期中期計画(平成28年度～令和元年度)		令和元年度計画		令和元年度実績【実施状況及び業務運営の状況】		評価の視点	自己 評定	評定の理由等		H30 評定	評定	設立団体の評価	
第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置													
1 病床機能の分化・連携													
(1)日本海総合病院の機能													
「高度急性期」医療機能を有し、急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向け、次表のような診療密度が特に高い医療を提供する。 (令和元年10月病床数変更)		「高度急性期」医療機能を有し、急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向け、次表のような診療密度が特に高い医療を提供する。 ・許可病床数を基本にしつつ、患者の動向や地域内の関係機関の合意等を踏まえ、地域医療構想の達成に向けた適正な病床数に変更していく。 ・患者の負担軽減及び利便性に繋がるよう、日帰り手術センター(仮称)を開設する。		DPC特定病院群の適用により、診療密度の高い急性期医療を提供している。 許可病床数については、これまで休床としていた16床を廃止し、630床とした。削減した病床のうち12床を患者の負担軽減及び利便性につながるよう「日帰り手術センター」として運用を開始し、4床については、地域医療連携推進法人日本海ヘルスケアネットの参加法人である本間病院に回復期病床として病床融通を行い、地域医療構想の推進に努めた。		◇急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向け、診療密度が特に高い医療を提供したか。	A	▽延入院患者数 186,991人(510.9人/日) 前年度比 △3,624人 ▽延外来患者数 342,371人(1,420.6人/日) 前年度比 △1,719人 ▽病床利用率 81.6% 前年度比△1.3% ▽平均在院日数 11.5日 前年度比+0.1日 ▽日帰り手術センター件数 163件 ▽DPC係数 平成28年度 1.4349 平成29年度 1.4349 平成30年度 1.5010 令和元年度 1.5099 ▽DPC特定病院群の適用の維持による医療の質の向上や、病床の削減及び病床融通を行い地域医療構想の推進に取り組んだ。		A			
日本海総合病院 項 目 概 要 許可病床数 一般病床 626床 (うち、救命救急センター 24床) 感染症病床 4床 合 計 630床 標 榜 科 (27診療科) 内科、循環器内科、消化器内科、内視鏡内科、精神科、神経内科、小児科、緩和ケア内科、外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科 診療機能等 ・救命救急センター(ICU、HCU) ・PETセンター ・外来化学療法室 ・LDR室(陣痛・分娩・回復室) ・未熟児室 ・認知症患者医療センター ・特殊診察室及び感染症室(陰圧・陽圧室) ・人工透析室 ・ハイブリッド手術室 ・地域医療支援病院 ・地域がん診療連携拠点病院 ・災害拠点病院 ・へき地医療拠点病院 ・臨床研修病院 など		日本海総合病院 項 目 概 要 許可病床数 一般病床 630床 (うち、救命救急センター 24床) 感染症病床 4床 合 計 634床 標 榜 科 (27診療科) 内科、循環器内科、消化器内科、内視鏡内科、精神科、神経内科、小児科、緩和ケア内科、外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科 診療機能等 ・救命救急センター(ICU、HCU) ・PETセンター ・外来化学療法室 ・LDR室(陣痛・分娩・回復室) ・未熟児室 ・認知症患者医療センター ・特殊診察室及び感染症室(陰圧・陽圧室) ・人工透析室 ・ハイブリッド手術室 ・地域医療支援病院 ・地域がん診療連携拠点病院 ・災害拠点病院 ・へき地医療拠点病院 ・臨床研修病院 など		日本海総合病院 項 目 概 要 許可病床数 一般病床 626床 (うち、救命救急センター 24床) 感染症病床 4床 合 計 630床 標 榜 科 (27診療科) 内科、循環器内科、消化器内科、内視鏡内科、精神科、神経内科、小児科、緩和ケア内科、外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科 診療機能等 ・救命救急センター(ICU、HCU) ・PETセンター ・外来化学療法室 ・LDR室(陣痛・分娩・回復室) ・未熟児室 ・認知症患者医療センター ・特殊診察室及び感染症室(陰圧・陽圧室) ・人工透析室 ・ハイブリッド手術室 ・地域医療支援病院 ・地域がん診療連携拠点病院 ・災害拠点病院 ・へき地医療拠点病院 ・臨床研修病院 など									
(2)日本海酒田リハビリテーション病院の機能													
急性期を経過した患者について、次のような医療を提供する。 ①「回復期」医療機能を有し、在宅復帰に向けた医療及びADL(日常生活動作)の向上を目的としたリハビリテーションを提供する。 ②「慢性期」医療機能を有し、長期にわたり療養を必要とする患者及び重度障がい者等を受入れる。		急性期を経過した患者について、次のような医療を提供する。 ア「回復期」医療機能を有し、在宅復帰に向けた医療及びADL(日常生活動作)の向上を目的としたリハビリテーションを提供する。 イ「慢性期」医療機能を有し、長期にわたり療養を必要とする患者及び重度障がい者等を受け入れる。		回復期医療及び慢性期医療を適切に提供し、新たに訪問リハビリテーションの提供を開始した。		◇急性期を経過した患者について、「回復期」「慢性期」の医療を提供したか。	A	▽延入院患者数 34,696人(94.8人/日) 前年度比△2,237人 ▽延外来患者数 243人(1.0人/日) 前年度比△114人 ▽病床利用率 83.2% 前年度比△5.6% ▽平均在院日数 50.1日 前年度比△9.0日 ▽通所リハビリテーション利用者数 4,091人(17.0人/日)前年度比+220人 ▽訪問リハビリテーション利用者数 167人(0.9人/日) ▽通所リハビリテーションの定員増や、訪問リハビリテーションの開始など、患者のニーズに対応したリハビリテーションの提供に努めた。		A			
日本海酒田リハビリテーション病院 項 目 概 要 許可病床数 医療療養型療養病床 35床 回復期リハビリテーション病床 79床 合 計 114床 標 榜 科 (2診療科) 内科、リハビリテーション科 診療機能等 ・回復期リハビリテーション ・通所リハビリテーション ・在宅重症難病患者一時入院機能 ・機能訓練室 ・デイケア室 ・臨床研修病院 など		日本海酒田リハビリテーション病院 項 目 概 要 許可病床数 医療療養型療養病床 35床 回復期リハビリテーション病床 79床 合 計 114床 標 榜 科 (2診療科) 内科、リハビリテーション科 診療機能等 ・回復期リハビリテーション ・通所リハビリテーション ・在宅重症難病患者一時入院機能 ・機能訓練室 ・デイケア室 ・臨床研修病院 など		日本海酒田リハビリテーション病院 項 目 概 要 許可病床数 医療療養型療養病床 35床 回復期リハビリテーション病床 79床 合 計 114床 標 榜 科 (2診療科) 内科、リハビリテーション科 診療機能等 ・回復期リハビリテーション ・通所リハビリテーション ・在宅重症難病患者一時入院機能 ・機能訓練室 ・デイケア室 ・臨床研修病院 など									

第3期中期計画(平成28年度～令和元年度)	令和元年度計画	令和元年度実績【実施状況及び業務運営の状況】	評価の視点	自己 評定	評定の理由等	H30 評定	評定	設立団体の評価
(3)日本海八幡クリニック等診療所の機能	(3)日本海八幡クリニック等診療所の機能							
日本海八幡クリニック等診療所は、それぞれの地域における唯一の医療機関であり、日常的な病気やけが等の患者に対して医療を提供する。また、地域の医療需要を考慮した体制も検討していく。	日本海八幡クリニック等診療所は、それぞれの地域における唯一の医療機関であり、日常的な病気やけが等の患者に対して医療を提供する。また、地域の医療需要を考慮した体制も検討していく。 地域内のニーズに応えるために、訪問看護ステーションの指定を受け介護保険事業を含む訪問看護を実施していく。	日本海八幡クリニックでは、平日延長診療、土曜診療及び訪問診療の実施、並びに、訪問看護ステーションの指定を受け運営を行った。 飛島診療所は、日本海総合病院の医師による出張診療や遠隔診療を行った。	各 地 域 に お け る 唯 一 の 医 療 機 関 と し て 、 日 常 的 な 病 気 や け が 等 の 患 者 に 対 し て 医 療 を 提 供 し た か 。	A	▽日本海八幡クリニック 延外来患者数 17,038人(60.9人/日) 前年度比△136人 訪問看護ステーション 延利用者数 3,842人(13.2人/日) 前年度比+1,105人 ▽松山診療所 延外来患者数 3,732人(19.3人/日) 前年度比△414人 飛島診療所 延外来患者数 540人(3.5人/日) 前年度比△73人 ▽日本海八幡クリニックの訪問看護については、訪問看護ステーションの指定を受け、更に医療法人宏友会と統合を図り、円滑な移行に努め、利用者数の増加にもつながった。	A		
日本海八幡クリニック	日本海八幡クリニック	日本海八幡クリニック						
項 目	概 要	項 目	概 要					
標榜科(4診療科)	内科、外科、整形外科、リハビリテーション科	標榜科(4診療科)	内科、外科、整形外科、リハビリテーション科					
診療機能等	・運動器・呼吸器・脳血管疾患等リハビリテーション ・訪問診療、訪問看護(介護保険事業含む) ・飛島診療所の遠隔診療	診療機能等	・運動器・呼吸器・脳血管疾患等リハビリテーション ・訪問診療、訪問看護(介護保険事業含む) ・飛島診療所の遠隔診療					
升田診療所	升田診療所	升田診療所						
項 目	概 要	項 目	概 要					
標榜科	内科	標榜科	内科					
青沢診療所	青沢診療所	青沢診療所						
項 目	概 要	項 目	概 要					
標榜科	内科	標榜科	内科					
松山診療所	松山診療所	松山診療所						
項 目	概 要	項 目	概 要					
標榜科(2診療科)	内科、外科	標榜科(2診療科)	内科、外科					
診療機能等	・訪問診療	診療機能等	・訪問診療					
地見興屋診療所	地見興屋診療所	地見興屋診療所						
項 目	概 要	項 目	概 要					
標榜科(2診療科)	内科、外科	標榜科(2診療科)	内科、外科					
飛島診療所	飛島診療所	飛島診療所						
項 目	概 要	項 目	概 要					
標榜科(2診療科)	内科、外科	標榜科(2診療科)	内科、外科					
2 高度専門医療・回復期医療の提供及び医療水準の向上								
(1)高度専門医療・回復期医療等の充実・強化								
日本海総合病院は、庄内二次医療圏の中核的な医療機関として、急性期医療や高度専門医療等の充実、日本海酒田リハビリテーション病院は、北庄内地域の回復期・慢性期医療の充実、日本海八幡クリニック等診療所は、一次医療等の充実を図るため、次のような取組を行う。								
ア 診療体制の充実	ア 診療体制の充実							
(ア)救急医療	(ア)救急医療(日本海総合病院)							
① 庄内二次医療圏で唯一の救命救急センターとして、24時間365日、地域に信頼される医療の提供に努める。	a 庄内二次医療圏で唯一の救命救急センターとして、24時間365日、地域に信頼される医療の提供に努める。	庄内二次医療圏で唯一の救命救急センターとして、救急医療の提供に努めている。 【実績】救命救急センター延べ患者数 平成28年度平成29年度平成30年度令和元年度 23,619名 23,775名 23,164名 22,964名	◇庄内二次医療圏で唯一の救命救急センターとして、24時間365日、地域に信頼される医療を提供したか。	B	▽24時間365日、救急医療の提供に努めている。	A		
② 酒田地区広域行政組合消防本部及び鶴岡市消防本部との連携を強化し、救急医療の充実に努める。	b 酒田地区広域行政組合消防本部及び鶴岡市消防本部との連携を強化し、救急医療の充実に努める。	酒田地区広域行政組合消防本部及び鶴岡市消防本部との連携強化のため、合同で救急医療講演会を開催し、救急医療の充実に努めた。 【実績】救命救急センター講演会:日本海総合病院 講堂 実施日等 研修内容等 参加人数 令和元年12月5日 「脳梗塞急性期血栓回収療法の実践と地域連携」 鶴岡市立荘内病院 副院長 兼 脳神経外科主任医長 佐藤 和彦 氏 106名	◇酒田地区及び鶴岡地区消防本部との連携強化を図り、救急医療の充実に努めたか。	B	▽救急医療講演会の合同開催により、連携の強化を図った。	B		
③ 救命救急センターの機能強化のため、一般社団法人酒田地区医師会十全堂と連携し、平日夜間救急診療体制を維持する。	c 救命救急センターの機能強化のため、一般社団法人酒田地区医師会十全堂(以下「酒田地区医師会」という。)と連携し、平日夜間救急診療体制を維持する。	一般社団法人酒田地区医師会十全堂との連携の継続により、平日夜間救急診療体制を維持し、救命救急センターの機能強化に努めた。 【実績】酒田地区医師会診療支援による延べ患者数 区 分 平成28年度平成29年度平成30年度令和元年度 小児科 585名 436名 300名 239名 その他 1,081名 824名 627名 482名	◇酒田地区医師会と連携し、平日夜間救急医療の体制を維持したか。	B	▽一般社団法人酒田地区医師会十全堂との連携により、平日夜間救急診療体制を維持している。	B		

第3期中期計画（平成28年度～令和元年度）	令和元年度計画	令和元年度実績【実施状況及び業務運営の状況】	評価の視点	自己 評価	評価の理由等	H30 評価	評価	設立団体の評価																																		
(イ)がん医療（日本海総合病院）	(イ)がん医療（日本海総合病院）																																									
① 地域がん診療連携拠点病院として、手術、放射線治療及び化学療法を効果的に組み合わせた集学的治療を提供する。	a 地域がん診療連携拠点病院として、手術、放射線治療及び化学療法を効果的に組み合わせた集学的治療を提供する。また、より適切ながん医療を提供するため、がんサ ーボードを開催する。	手術、放射線治療及び化学療法を効果的に組み合わせた集学的治療を提供し、がんサ ーボードを定期的に開催した。 【実績】手術、放射線療法、外来化学療法の件数 <table><tr><td>区 分</td><td>平成28年度</td><td>平成29年度</td><td>平成30年度</td><td>令和元年度</td></tr><tr><td>手術</td><td>1,093件</td><td>1,140件</td><td>1,173件</td><td>1,159件</td></tr><tr><td>放射線療法</td><td>7,931件</td><td>7,438件</td><td>6,594件</td><td>5,434件</td></tr><tr><td>外来化学療法</td><td>4,167件</td><td>5,122件</td><td>5,749件</td><td>6,252件</td></tr></table> 【実績】がんサ ーボード回数 <table><tr><td>平成29年度</td><td>平成30年度</td><td>令和元年度</td></tr><tr><td>14回</td><td>23回</td><td>24回</td></tr></table>	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	手術	1,093件	1,140件	1,173件	1,159件	放射線療法	7,931件	7,438件	6,594件	5,434件	外来化学療法	4,167件	5,122件	5,749件	6,252件	平成29年度	平成30年度	令和元年度	14回	23回	24回	◇集学的治療を提供したか。	B	▽集学的治療を継続して行っており、外来化学療法の延件数においては増加傾向にある。	B										
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																						
手術	1,093件	1,140件	1,173件	1,159件																																						
放射線療法	7,931件	7,438件	6,594件	5,434件																																						
外来化学療法	4,167件	5,122件	5,749件	6,252件																																						
平成29年度	平成30年度	令和元年度																																								
14回	23回	24回																																								
② 高度専門的ながん医療を提供するため、県全体の体制を踏まえながら、サイバーナイフの導入を検討する。	b 高度専門的ながん医療を提供するため、高精度放射線治療装置を導入し、IMRT（強度変調放射線治療）の診療体制等を整える。	高精度放射線治療装置を導入し、令和元年10月から治療装置の運用を開始している。	◇高精度放射線治療装置（IMRT）を導入したか。	B	▽ IMRTの診療体制については、施設基準（医師配置）の取得が出来ず、未実施となっているが、継続して放射線治療の提供を行っている。	B																																				
③ 患者の病態に応じ、より適切で効果的ながん医療を提供するため、専門的な知識及び技能を有する医療従事者の配置など体制の充実を図る。	c 患者の病態に応じ、より適切で効果的ながん医療を提供するため、専門的な知識及び技能を有する医療従事者の配置など体制の充実を図る。	「医療・福祉センター」に、専門的な知識を有する医療従事者（がん相談員）を配置し、より適切で効果的ながん医療を提供に努めている。 【実績】がん相談件数 <table><tr><td>平成28年度</td><td>平成29年度</td><td>平成30年度</td><td>令和元年度</td></tr><tr><td>1,142件</td><td>1,183件</td><td>1,220件</td><td>1,691件</td></tr></table>	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	1,142件	1,183件	1,220件	1,691件	◇医療従事者の配置など体制の充実を図ったか。	B	▽医療・福祉センター職員の「がん相談支援センター相談員基礎研修」等への参加により、スキルアップを図った。 ▽医療・福祉センターへのがん相談員の配置などにより、前年度よりも、がん相談件数が大幅に増加している。	A																												
平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																							
1,142件	1,183件	1,220件	1,691件																																							
④ 早期に適切な緩和ケアを提供するため、緩和ケアチームを中心とした体制の充実を図る。	d 早期に適切な緩和ケアを提供するため、がん診療サポートチームを中心とした体制の充実を図る。	早期に適切な緩和ケアを提供するため、緩和ケアセンターを設置し、がん診療サポートチームを中心に、緩和ケア医療の充実を図っている。 【実績】緩和ケア件数 <table><tr><td>区 分</td><td>平成28年度</td><td>平成29年度</td><td>平成30年度</td><td>令和元年度</td></tr><tr><td>病棟回診</td><td>299名</td><td>351名</td><td>370名</td><td>410名</td></tr><tr><td>緩和ケア外来</td><td>135名</td><td>186名</td><td>151名</td><td>223名</td></tr></table> 【実績】緩和ケアスクリーニング実施件数 <table><tr><td>区 分</td><td>平成28年度</td><td>平成29年度</td><td>平成30年度</td><td>令和元年度</td></tr><tr><td>入院</td><td>3,632件</td><td>3,833件</td><td>3,291件</td><td>3,962件</td></tr><tr><td>外来</td><td>444件</td><td>561件</td><td>449件</td><td>447件</td></tr></table> 【実績】がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 <table><tr><td>実施日</td><td>受講者数</td></tr><tr><td>令和元年11月23日</td><td>105名</td></tr></table>	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	病棟回診	299名	351名	370名	410名	緩和ケア外来	135名	186名	151名	223名	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	入院	3,632件	3,833件	3,291件	3,962件	外来	444件	561件	449件	447件	実施日	受講者数	令和元年11月23日	105名	◇緩和ケア提供体制の充実を図ったか。	B	▽医師に対する緩和ケア研修会を開催し、体制の充実を図った。	B		
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																						
病棟回診	299名	351名	370名	410名																																						
緩和ケア外来	135名	186名	151名	223名																																						
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																						
入院	3,632件	3,833件	3,291件	3,962件																																						
外来	444件	561件	449件	447件																																						
実施日	受講者数																																									
令和元年11月23日	105名																																									
⑤ 院内がん登録及び地域がん登録を実施し、がん対策の進展に貢献する。	e 院内がん登録及び地域がん登録を実施し、がん対策の進展に貢献する。	院内がん登録及び地域がん登録を実施した。 【実績】がん登録件数 <table><tr><td>区分</td><td>平成28年度</td><td>平成29年度</td><td>平成30年度</td><td>令和元年度</td></tr><tr><td>院内がん登録</td><td>1,709件</td><td>1,716件</td><td>1,978件</td><td>1,858件</td></tr><tr><td>全国がん登録</td><td>1,661件</td><td>1,778件</td><td>2,007件</td><td>1,876件</td></tr></table>	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	院内がん登録	1,709件	1,716件	1,978件	1,858件	全国がん登録	1,661件	1,778件	2,007件	1,876件	◇地域がん診療連携拠点病院として、がん対策に貢献したか。	B	▽がん登録を実施しがん対策に貢献している。	A																					
区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																						
院内がん登録	1,709件	1,716件	1,978件	1,858件																																						
全国がん登録	1,661件	1,778件	2,007件	1,876件																																						

第3期中期計画(平成28年度～令和元年度)	令和元年度計画	令和元年度実績【実施状況及び業務運営の状況】	評価の視点	自己 評定	評定の理由等	H30 評定	評定	設立団体の評価																																																																						
(ウ)脳卒中・急性心筋梗塞(日本海総合病院)	(ウ)脳卒中・急性心筋梗塞(日本海総合病院)																																																																													
① 高度専門的な内科的又は外科的治療を速やかに行い、機能回復のため早期にリハビリテーションを開始する。	a 高度専門的な内科的又は外科的治療を速やかに行い、機能回復のため早期にリハビリテーションを開始する。	高度専門的な治療を速やかに行い、機能回復のため早期にリハビリテーションを開始している。また、継続して休日のリハビリテーションを提供している。 【実績】脳卒中t-PA実施件数 平成28年度平成29年度平成30年度令和元年度 29件26件20件24件 【実績】疾患別リハビリテーション実施状況(日本海総合病院) <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="2">平成28年度</th><th colspan="2">平成29年度</th><th colspan="2">平成30年度</th><th colspan="2">令和元年度</th></tr><tr><th>実患者数</th><th>回数</th><th>実患者数</th><th>回数</th><th>実患者数</th><th>回数</th><th>実患者数</th><th>回数</th></tr><tr><td>脳血管</td><td>772名</td><td>42,652回</td><td>756名</td><td>53,943回</td><td>790名</td><td>51,086回</td><td>883名</td><td>48,822回</td></tr><tr><td>心大血管</td><td>752名</td><td>19,051回</td><td>670名</td><td>18,139回</td><td>772名</td><td>18,487回</td><td>827名</td><td>17,010回</td></tr></table> 【実績】休日のリハビリテーション実施状況(日本海総合病院)※H28年10月～休日の脳血管リハ開始 <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="2">平成28年度</th><th colspan="2">平成29年度</th><th colspan="2">平成30年度</th><th colspan="2">令和元年度</th></tr><tr><th>実患者数</th><th>回数</th><th>実患者数</th><th>回数</th><th>実患者数</th><th>回数</th><th>実患者数</th><th>回数</th></tr><tr><td>脳血管</td><td>330名</td><td>1,493回</td><td>622名</td><td>3,387回</td><td>684名</td><td>6,218回</td><td>746名</td><td>6,205回</td></tr><tr><td>心大血管</td><td>494名</td><td>1,357回</td><td>555名</td><td>2,162回</td><td>603名</td><td>2,046回</td><td>543名</td><td>1,769回</td></tr></table>	区 分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数	脳血管	772名	42,652回	756名	53,943回	790名	51,086回	883名	48,822回	心大血管	752名	19,051回	670名	18,139回	772名	18,487回	827名	17,010回	区 分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数	脳血管	330名	1,493回	622名	3,387回	684名	6,218回	746名	6,205回	心大血管	494名	1,357回	555名	2,162回	603名	2,046回	543名	1,769回	◇高度専門的な治療を速やかに行い、早期にリハビリテーションを開始したか。	B	▽専門的な治療及び休日を含めたりハビリテーションを継続して実施している。	B		
区 分	平成28年度			平成29年度		平成30年度		令和元年度																																																																						
	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数																																																																						
脳血管	772名	42,652回	756名	53,943回	790名	51,086回	883名	48,822回																																																																						
心大血管	752名	19,051回	670名	18,139回	772名	18,487回	827名	17,010回																																																																						
区 分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度																																																																							
	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数																																																																						
脳血管	330名	1,493回	622名	3,387回	684名	6,218回	746名	6,205回																																																																						
心大血管	494名	1,357回	555名	2,162回	603名	2,046回	543名	1,769回																																																																						
② 急性心筋梗塞の治療にあたっては、多職種連携による緊急入院体制を強化するとともに、Door to balloon time(病院到着時から、カテーテル治療による血流再開までの時間)90分以内を実践する。	b 急性心筋梗塞の治療にあたっては、多職種連携による緊急入院体制を強化するとともに、Door to balloon time(病院到着時から、カテーテル治療による血流再開までの時間)90分以内を実践する。	急性心筋梗塞の救急搬送患者等に対して、医師や看護師等が連携し、治療及び入院体制を整え、速やかにカテーテル治療を行い、「Door to balloon time」90分以内の実践に努めた。 【実績】経皮的冠動脈ステント留置術件数 平成28年度平成29年度平成30年度令和元年度 58件69件74件60件 ※急性心筋梗塞、不安定狭心症に対するもの 【実績】12誘導心電図伝送件数 平成30年度令和元年度 53件281件 ※平成31年2月開始	◇多職種連携による緊急入院体制によりカテーテル治療を行ったか。	B	▽医師、看護師、コメディカルスタッフの連携により、速やかにカテーテル治療を行い、「Door to balloon time」90分以内を実践している。	A																																																																								
(エ)糖尿病	(エ)糖尿病(日本海総合病院)																																																																													
医師、看護師及び管理栄養士等が協働して、治療又は生活習慣改善のため、糖尿病教室等の患者教育・指導を行う。	医師、看護師及び管理栄養士等が協働して、治療又は生活習慣改善のため、糖尿病教室等の患者教育・指導を行う。	治療や生活習慣改善のため、糖尿病教室等の患者教育・指導を行った。 【実績】糖尿病教室 <table><tr><th>区 分</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>開催回数</td><td>19回</td><td>15回</td><td>15回</td><td>19回</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>69名</td><td>44名</td><td>43名</td><td>51回</td></tr></table> 【実績】糖尿病透析予防指導の実患者数、指導回数 <table><tr><th>区 分</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>実患者数</td><td>6名</td><td>8名</td><td>6名</td><td>5名</td></tr><tr><td>指導回数</td><td>19回</td><td>19回</td><td>17回</td><td>11名</td></tr></table> 【実績】教育入院患者数 平成28年度平成29年度平成30年度令和元年度 64名68名84名69名 【実績】個別栄養指導件数 <table><tr><th>区 分</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>入院</td><td>253件</td><td>257件</td><td>332件</td><td>296名</td></tr><tr><td>外来</td><td>296件</td><td>350件</td><td>342件</td><td>402名</td></tr><tr><td>合 計</td><td>549件</td><td>607件</td><td>664件</td><td>698名</td></tr></table>	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	開催回数	19回	15回	15回	19回	参加人数	69名	44名	43名	51回	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	実患者数	6名	8名	6名	5名	指導回数	19回	19回	17回	11名	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	入院	253件	257件	332件	296名	外来	296件	350件	342件	402名	合 計	549件	607件	664件	698名	◇治療又は生活習慣改善のため、糖尿病患者の教育等を行ったか。	B	▽糖尿病教室等の患者教育・指導を継続して行っている。	B																						
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																																										
開催回数	19回	15回	15回	19回																																																																										
参加人数	69名	44名	43名	51回																																																																										
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																																										
実患者数	6名	8名	6名	5名																																																																										
指導回数	19回	19回	17回	11名																																																																										
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																																										
入院	253件	257件	332件	296名																																																																										
外来	296件	350件	342件	402名																																																																										
合 計	549件	607件	664件	698名																																																																										

第3期中期計画（平成28年度～令和元年度）	令和元年度計画	令和元年度実績【実施状況及び業務運営の状況】	評価の視点	自己 評価	評価の理由等	H30 評価	評価	設立団体の評価
(オ)精神疾患	(オ)精神疾患							
地域の精神科病院等との役割分担及び連携を図り、電気痙攣療法等の高度専門的な医療を提供する。	地域の精神科病院等との役割分担及び連携を図り、電気痙攣療法等の高度専門的な医療を提供する。また、精神疾患のある身体合併症患者の急性期治療体制等の確立を目指す。	地域の精神科病院等との役割分担及び連携を図り、電気痙攣療法等の高度専門的な医療を提供している。 【実績】精神科電気痙攣療法の実施件数 平成28年度平成29年度平成30年度令和元年度 109件152件78件99件	◇地域の精神科病院等との役割分担及び連携を図り、高度専門的な医療を提供したか。	B	▽急性期病院として精神疾患を有する身体合併症患者を受け入れるとともに、電気痙攣療法等の高度専門的な医療を提供した。	B		
(カ)小児・周産期医療	(カ)小児・周産期医療（日本海総合病院）							
① 二次周産期医療機関として、他の医療機関との機能分担及び連携を図り、ハイリスク分娩の対応、母体搬送及び新生児搬送の受入れを行う。	a 二次周産期医療機関として、他の医療機関との機能分担及び連携を図り、ハイリスク分娩の対応、母体搬送及び新生児搬送の受入れを行う。	二次周産期医療機関として、他の医療機関との機能分担及び連携を図り、ハイリスク分娩への対応、母体搬送及び新生児搬送の受け入れを行っている。 【実績】母体・新生児救急受入れ患者数等状況 区 分平成28年度平成29年度平成30年度令和元年度 母体19名10名17名14名 新生児4名5名4名3名 緊急帝王切開術26件23件38件51件	◇二次周産期医療機関として母体搬送等の受入れを行ったか。	B	▽二次周産期医療を行う拠点病院として、ハイリスク分娩や帝王切開など高度な周産期医療を提供するとともに、他の医療機関から救急搬送された母体、新生児の受入れを行っている。	B		
② 産科医及び小児科医の充実した体制のもと、地域の住民が安心して出産し、かつ子育てができるよう良質な医療を提供するとともに、三次周産期医療機関である総合周産期母子医療センター及び地域周産期母子医療センターとの連携を図る。	b 産科医及び小児科医の充実した体制のもと、地域の住民が安心して出産し、かつ子育てができるよう良質な医療を提供するとともに、三次周産期医療機関である総合周産期母子医療センター及び地域周産期母子医療センターとの連携を図る。	産科及び小児科の専門医の充実した体制により、地域住民が安心して出産できる環境を提供している。また、三次周産期医療機関である山形県立中央病院及び鶴岡市立荘内病院との連携を図った。 【実績】母体・新生児の救急搬送患者数 区 分平成28年度平成29年度平成30年度令和元年度 母体14名15名8名14名 新生児2名4名1名2名	◇三次周産期医療機関である総合周産期母子医療センター及び地域周産期母子医療センターとの連携を図ったか。	B	▽三次周産期医療機関である山形県立中央病院及び鶴岡市立荘内病院との連携を図り、母体・新生児の救急搬送を適切に行っている。 母体：荘内病院 11名、県立中央病院 2名、山形済生病院 1名 新生児：宮城県立こども病院 1名、荘内病院 1名	A		
	c 働きながらも無理なく妊婦健診が受けられるように、夕方の妊婦健診を行う。	働きながらも無理なく妊婦健診が受けられるように、夕方妊婦健診を実施した。 【実績】夕方診療(妊婦健診)患者数 平成30年度令和元年度 実患者数45名41名 延患者数110名105名		B	▽夕方の妊婦健診を毎週月曜日実施している。	B		
(キ)回復期リハビリテーション	(キ)回復期リハビリテーション（日本海酒田リハビリテーション病院）							
脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等により障がいが生じた患者のADLを改善し、早期に在宅療養又は社会復帰ができるよう、リハビリテーションを集中的に提供する。	脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等により障がいが生じた患者のADLを改善し、早期に在宅療養又は社会復帰ができるよう、リハビリテーションを集中的に提供する。	言語聴覚士の増員や、休日におけるリハビリテーションの実施など、集中的にリハビリテーションを提供した。 【実績】疾患別リハビリテーション実施状況(日本海酒田リハビリテーション病院) 区 分平成28年度平成29年度平成30年度令和元年度 実患者数単位数実患者数単位数実患者数単位数実患者数単位数 脳血管258名82,014回224名85,353回230名91,890回259名83,432回 運動器183名44,051回207名59,826回222名60,268回212名53,809回 【実績】理学療法士等補充状況 区 分平成28年度平成29年度平成30年度令和元年度 理学療法士3名2名2名－ 作業療法士3名3名3名－ 言語聴覚士－－1名1名	◇早期に在宅療養又は社会復帰ができるよう、リハビリテーションを集中的に提供したか。	A	▽通所リハビリテーションの定員を20名から30名に増やし、提供単位数の増加に努めた。 ・平成28年度 52名 2,786単位 ・平成29年度 60名 4,046単位 ・平成30年度 72名 3,871単位 ・令和元年度 71名 4,091単位	S		

第3期中期計画（平成28年度～令和元年度）	令和元年度計画	令和元年度実績【実施状況及び業務運営の状況】	評価の視点	自己 評定	評定の理由等	H30 評定	評定	設立団体の評価																																																												
(ク)在宅医療支援及び療養支援	(ク)在宅医療支援及び療養支援																																																																			
① 退院後、在宅療養へ患者が円滑に移行し、切れ目なくサービスの提供を受けることができるよう、入院初期から積極的に支援を行う。	a 退院後、在宅療養へ患者が円滑に移行し、切れ目なくサービスの提供を受けることができるよう、入院初期から積極的に支援を行う。	退院後、在宅療養へ患者が円滑に移行し、切れ目なくサービスを受けることができるよう、地域連携室の看護師及び医療福祉相談室の専任社会福祉士が地域の介護・福祉・医療機関との連携を図りながら、患者との退院調整業務を行っている。 【実績】退院調整件数（日本海総合病院） <table><tr><th>区 分</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>他病院</td><td>969件</td><td>946件</td><td>996件</td><td>1,189件</td></tr><tr><td>在宅</td><td>13,878件</td><td>14,506件</td><td>14,337件</td><td>13,684件</td></tr><tr><td>介護老人保健施設</td><td>134件</td><td>82件</td><td>109件</td><td>83件</td></tr><tr><td>介護老人福祉施設</td><td>84件</td><td>139件</td><td>144件</td><td>189件</td></tr><tr><td>ショートステイ</td><td>137件</td><td>103件</td><td>87件</td><td>97件</td></tr><tr><td>有料老人ホーム</td><td>222件</td><td>226件</td><td>246件</td><td>259件</td></tr><tr><td>その他</td><td>118件</td><td>99件</td><td>98件</td><td>99件</td></tr><tr><td>合 計</td><td>15,542件</td><td>16,101件</td><td>16,017件</td><td>15,600件</td></tr></table>	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	他病院	969件	946件	996件	1,189件	在宅	13,878件	14,506件	14,337件	13,684件	介護老人保健施設	134件	82件	109件	83件	介護老人福祉施設	84件	139件	144件	189件	ショートステイ	137件	103件	87件	97件	有料老人ホーム	222件	226件	246件	259件	その他	118件	99件	98件	99件	合 計	15,542件	16,101件	16,017件	15,600件	◇在宅療養へ患者が円滑に移行できるよう退院調整又は入院前面談を行い、切れ目のないサービス提供に努めたか。	B	▽地域連携室の看護師7名及び医療福祉相談室の退院支援専任社会福祉士1名（退院支援職員）が地域の介護・福祉・医療機関との連携を図りながら、患者との退院調整業務を行っている。	A																	
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																																
他病院	969件	946件	996件	1,189件																																																																
在宅	13,878件	14,506件	14,337件	13,684件																																																																
介護老人保健施設	134件	82件	109件	83件																																																																
介護老人福祉施設	84件	139件	144件	189件																																																																
ショートステイ	137件	103件	87件	97件																																																																
有料老人ホーム	222件	226件	246件	259件																																																																
その他	118件	99件	98件	99件																																																																
合 計	15,542件	16,101件	16,017件	15,600件																																																																
② 在宅患者が安心して地域で療養ができるよう、訪問リハビリテーションを検討するとともに、他の医療・介護・福祉機関と連携して支援する。	b 在宅患者が安心して地域で療養ができるよう、他の医療・介護・福祉機関と連携して支援する。	在宅患者が安心して地域で療養ができるよう、「大腿骨近位部骨折地域連携バス」及び「脳卒中地域連携バス」の運用により、関連施設や関連機関との診療情報の共有及び評価を行うなど連携を図り支援した。 【実績】地域連携クリニカルバス適用件数 <table><tr><th>区 分</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>肺がん</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>大腸がん</td><td>11件</td><td>6件</td><td>18件</td><td>7件</td></tr><tr><td>肝がん</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>乳がん</td><td>16件</td><td>9件</td><td>8件</td><td>13件</td></tr><tr><td>胃がん</td><td>19件</td><td>10件</td><td>13件</td><td>13件</td></tr><tr><td>大腿骨頸部骨折</td><td>128件</td><td>105件</td><td>117件</td><td>120件</td></tr><tr><td>脳卒中</td><td>195件</td><td>149件</td><td>159件</td><td>218件</td></tr><tr><td>心臓リハビリテーション</td><td>116件</td><td>108件</td><td>150件</td><td>169件</td></tr><tr><td>前立腺がん</td><td>65件</td><td>24件</td><td>32件</td><td>9件</td></tr></table> 【実績】地域連携診療計画加算（日本海総合病院） <table><tr><th>区 分</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>算定件数</td><td>295件</td><td>248件</td><td>276件</td><td>336件</td></tr></table>	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	肺がん	-	-	-	-	大腸がん	11件	6件	18件	7件	肝がん	-	-	-	-	乳がん	16件	9件	8件	13件	胃がん	19件	10件	13件	13件	大腿骨頸部骨折	128件	105件	117件	120件	脳卒中	195件	149件	159件	218件	心臓リハビリテーション	116件	108件	150件	169件	前立腺がん	65件	24件	32件	9件	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	算定件数	295件	248件	276件	336件	◇他の医療・介護・福祉機関と連携し支援したか。	B	▽地域連携バスの運用により、他の医療・介護・福祉機関と連携し支援を行った。	B		
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																																
肺がん	-	-	-	-																																																																
大腸がん	11件	6件	18件	7件																																																																
肝がん	-	-	-	-																																																																
乳がん	16件	9件	8件	13件																																																																
胃がん	19件	10件	13件	13件																																																																
大腿骨頸部骨折	128件	105件	117件	120件																																																																
脳卒中	195件	149件	159件	218件																																																																
心臓リハビリテーション	116件	108件	150件	169件																																																																
前立腺がん	65件	24件	32件	9件																																																																
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																																
算定件数	295件	248件	276件	336件																																																																
	c 日本海酒田リハビリテーション病院は、利用者のニーズを踏まえ、訪問リハビリテーションを実施する。	日本海酒田リハビリテーション病院は、新たに訪問リハビリテーションを開始し切れ目ないリハビリテーションの提供を行った。	◇日本海酒田リハビリテーション病院は、訪問リハビリテーションを検討したか。	B	▽訪問リハビリテーション利用者数167人（0.9人／日）	B																																																														
③ 在宅医療を行っている診療所等を支援するため、入院治療が必要となった患者の受入れ体制について連携強化を図る。	d 日本海酒田リハビリテーション病院は、在宅医療を行っている診療所等を支援するため、入院治療が必要となった患者の受入れ体制について連携強化を図る。	日本海酒田リハビリテーション病院は、在宅医療を行っている診療所等と連携を図り、入院治療が必要となったの患者の受け入れを行った。 【実績】診療所からの入院受入患者数 <table><tr><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>22名</td><td>23名</td><td>14名</td><td>9名</td></tr></table>	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	22名	23名	14名	9名	◇在宅医療を行っている診療所等を支援するために、受け入れ体制について連携強化を図ったか。	B	▽診療所等と連携して急性増悪のため入院治療が必要となった患者の受入れを適切に行った。	B																																																						
平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																																	
22名	23名	14名	9名																																																																	
(ケ) 一次医療とプライマリ・ケアの提供、充実	(ケ) 一次医療とプライマリ・ケアの提供、充実（日本海八幡クリニック等診療所）																																																																			
診療所が設置されている各地域において、日常的な病気やけが等の患者に医療とプライマリ・ケアを提供し、必要に応じて高度及び専門医療機関等に紹介を行う。	診療所が設置されている各地域において、日常的な病気やけが等の患者に医療とプライマリ・ケアを提供し、必要に応じて高度及び専門医療機関等に紹介を行う。 各診療所の運営については、日本海八幡クリニックで統括する。	日本海八幡クリニックは、平日延長診療及び土曜診療を行い、松山診療所では、訪問診療を、飛鳥診療所では、日本海総合病院の医師による出張診療と遠隔診療を行った。	◇各地域に、一次医療を提供したか。	B	▽日本海八幡クリニックの訪問看護については、訪問看護ステーションの指定及び医療法人宏友会との統合により、利用者数が増加した。 ▽松山診療所では、前年度同様に月～金曜日週5日間診療を行い、飛鳥診療所では、4月～10月まで日本海総合病院の医師による出張診療と年間を通して遠隔診療を行っている。	B																																																														
イ 高度医療機器の計画的な更新・整備	イ 高度医療機器の計画的な更新・整備（日本海総合病院）																																																																			
① 高度専門医療等の充実のため、中期計画期間中における医療機器の更新・整備計画を策定し、高度医療機器の計画的な更新・整備を行う。	(ア) 高度専門医療等の充実のため、中期計画期間中における医療機器の更新・整備計画を策定し、高度医療機器の計画的な更新・整備を行う。	総合医療情報システム（電子カルテ）やX線透視診断装置（デジタルX線テレビシステム）等の更新を行った。	◇高度医療機器等の更新・整備を計画的に行ったか。	B	▽高度医療機器の更新等に当たっては、起債及び剰余金を活用し、計画的に更新を行っている。	B																																																														
② 高度医療機器は、稼働率や収支の予測を十分に行い更新・整備する。	(イ) 高度医療機器は、稼働率や収支の予測を十分に行い更新・整備する。	高度医療機器の更新については、装置の稼働率や収支の予測を行い更新した。	◇装置の稼働率、設置に対する採算性、収支の予測を十分に行い更新したか。	B	▽同左	B																																																														

第3期中期計画（平成28年度～令和元年度）		令和元年度計画	令和元年度実績【実施状況及び業務運営の状況】	評価の視点	自己 評定	評定の理由等	H30 評定	評定	設立団体の評価															
ウ 災害時や健康危機における医療協力		ウ 災害時や健康危機における医療協力（日本海総合病院）																						
① 大規模事故や災害時には、自らの判断又は県の要請等に基づき、DMAT（災害派遣医療チーム）等を現地に派遣して医療支援活動を行う。		（ア）大規模事故や災害時には、自らの判断又は県の要請等に基づき、DMAT（災害派遣医療チーム）等を現地に派遣して医療支援活動を行う。	台風19号（令和元年10月）による大規模な浸水被害発生に伴い、宮城県柴田郡大河原町へDMATを派遣し、避難所等での支援活動を行った。	◇大規模事故や災害時に医療支援活動を行ったか。	A	▽災害派遣要請への対応のほか、各種訓練や研修会に積極的に参加し、職員の技能維持等に取り組んでいる。	A																	
② 大規模災害時には、県の要請に基づき、県内の空港に設置されたSCU（航空搬送拠点臨時医療施設）の運営に協力する。		（イ）大規模災害時には、県の要請に基づき、県内の空港に設置されたSCU（航空搬送拠点臨時医療施設）の運営に協力する。	庄内SCU（航空搬送拠点臨時医療施設）の運営協力として、山形県所有の庄内SCU医療用資機材を、日本海総合病院で保管し、点検等を実施し緊急時に備えた。	◇SCUの運営に協力したか。	B	▽要請に応じて速やかに使用できるよう医療用資機材の点検等の管理を行った。	B																	
③ 災害拠点病院の機能を十分に発揮できるよう、災害時に必要な医療物資等を備蓄するほか優先納入契約を継続し、災害時医療体制の充実・強化を図る。		（ウ）災害拠点病院の機能を十分に発揮できるよう、災害時に必要な医療物資等を備蓄するほか優先納入契約を継続し、災害時医療体制の充実・強化を図る。	災害時に必要な医療物資等及び患者、職員の食糧備蓄の補充を行い、優先納入契約、飲料水の提供に関する協定を継続するなど、災害時医療体制の充実に努めた。 【実績】補充した主な食糧備蓄 <table><tr><th colspan="2">購入内容</th><th>区分</th><th>数量</th></tr><tr><td rowspan="2">主食・汁物・おかず・飲料水・補助食品</td><td rowspan="2"></td><td>職員用</td><td>8,387食分</td></tr><tr><td>患者用</td><td>8,387食分</td></tr></table>	購入内容		区分	数量	主食・汁物・おかず・飲料水・補助食品		職員用	8,387食分	患者用	8,387食分	◇災害対応に必要な物品等の備蓄等、災害の体制充実・強化を図ったか。	B	▽燃料等の優先納入契約及び飲料水等の提供に関する協定の継続、食糧備蓄、医療物資等の備蓄を実施した。	B							
購入内容		区分	数量																					
主食・汁物・おかず・飲料水・補助食品		職員用	8,387食分																					
		患者用	8,387食分																					
④ 周辺地域で災害等が発生した場合に備え、定期的に災害対応訓練を行う。		（エ）周辺地域で災害等が発生した場合に備え、事業継続計画（BCP）に基づき、定期的に研修及び災害対応訓練を行う。	周辺地域で災害等が発生した場合に備え、災害医療研修及び訓練を実施した。 【実績】災害医療研修及び訓練（日本海総合病院） <table><tr><th>実施日</th><th>内 容</th><th>参加人数</th></tr><tr><td>令和元年5月15日</td><td>（災害医療研修会） 災害医療の基礎とトリアージ</td><td>131名</td></tr><tr><td>令和元年6月26日</td><td>（災害医療研修会） 模擬患者を使ったトリアージ研修会 協力 酒田地区広域行政組合消防本部</td><td>119名 （うち院外20名）</td></tr><tr><td>令和元年9月28日</td><td>（災害対応机上訓練） 机上での災害対応訓練の流れ</td><td>153名</td></tr><tr><td>令和2年2月13日</td><td>（災害医療研修会） 災害に対する基本的な知識について ～現場活動編～</td><td>142名 （うち院外2名）</td></tr></table>	実施日	内 容	参加人数	令和元年5月15日	（災害医療研修会） 災害医療の基礎とトリアージ	131名	令和元年6月26日	（災害医療研修会） 模擬患者を使ったトリアージ研修会 協力 酒田地区広域行政組合消防本部	119名 （うち院外20名）	令和元年9月28日	（災害対応机上訓練） 机上での災害対応訓練の流れ	153名	令和2年2月13日	（災害医療研修会） 災害に対する基本的な知識について ～現場活動編～	142名 （うち院外2名）	◇定期的に災害訓練等を行ったか。	B	▽基礎研修や机上訓練等、災害医療に関する研修を定期的に開催した。	B		
実施日	内 容	参加人数																						
令和元年5月15日	（災害医療研修会） 災害医療の基礎とトリアージ	131名																						
令和元年6月26日	（災害医療研修会） 模擬患者を使ったトリアージ研修会 協力 酒田地区広域行政組合消防本部	119名 （うち院外20名）																						
令和元年9月28日	（災害対応机上訓練） 机上での災害対応訓練の流れ	153名																						
令和2年2月13日	（災害医療研修会） 災害に対する基本的な知識について ～現場活動編～	142名 （うち院外2名）																						
⑤ 地域住民の生命を脅かす新たな感染症や薬物・食中毒等の健康危機事象が発生したときは、関係機関との緊密な連携のもと迅速な対応ができるよう、定期的に訓練や研修を行う。		（オ）地域住民の生命を脅かす新たな感染症や薬物・食中毒等の健康危機事象が発生したときは、関係機関との緊密な連携のもと迅速な対応ができるよう、合同で研修（訓練）を行う。	山形県主催の新型インフルエンザ等感染症発生時の情報伝達訓練に参加した。	◇関係機関と緊密な連携のもと迅速な対応ができるよう合同で研修（訓練）を行ったか。	B	▽山形県との合同訓練に参加した。	B																	

第3期中期計画（平成28年度～令和元年度）	令和元年度計画	令和元年度実績【実施状況及び業務運営の状況】	評価の視点	自己 評定	評定の理由等	H30 評定	評定	設立団体の評価															
エ 政策医療の実施	エ 政策医療の実施（日本海総合病院）																						
① 「山形県保健医療計画」等と整合性を図りながら、庄内二次医療圏の中核的な医療機関として、民間の医療機関では導入が困難な技術や先進的な技術の導入に取り組む。	(ア)「山形県保健医療計画」等と整合性を図りながら、庄内二次医療圏の中核的な医療機関として、民間の医療機関では導入が困難な技術や先進的な技術の導入に取り組む。	地域の民間の医療機関では導入が困難である、高精度放射線治療装置(IMRT)を整備した。	◇民間の医療機関では導入が困難な技術や先進的な技術の導入に取り組んだか。	B	▽高精度放射線治療装置(IMRT)を整備した。	B																	
② 第二種感染症指定医療機関として、適切な医療を提供し、感染症に迅速かつ的確に対応する。	(イ)第二種感染症指定医療機関として、適切な医療を提供し、感染症に迅速かつ的確に対応する。	第二種感染症指定医療機関として、2類感染症患者を受入れた。 ・2類感染症患者入院診療加算算定：延べ患者数359名 新型インフルエンザ等感染症発生時に入院患者受入体制を確保し、適切な医療を提供するため、新たに人工呼吸器2台、簡易陰圧装置1台、簡易ベッド1台を整備した。 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、帰国者・接触者外来を設置し、疑い患者42名の診療を行い、うち39名に対してPCR検査の検体採取を実施した。また、院内感染拡大防止のため、面会制限等の対応を行った。 外来診療においては、全外来患者を対象に新型コロナウイルス感染症に関する問診の実施と慢性疾患等で定期的に通院している患者に対して電話等による診療及び処方箋の発行を実施した。	◇感染症への迅速かつ的確な対応に努めたか。	A	▽新型コロナウイルス感染症の地域での感染拡大に備えて病床の確保等、医療体制の整備に努めた。	B																	
③ 認知症疾患医療センター運営事業実施要綱に基づき、認知症疾患に関する鑑別診断とその初期対応、周辺症状と身体合併症の急性期治療、専門医療相談等を実施する。	(ウ)認知症疾患医療センター運営事業実施要綱に基づき、認知症疾患に関する鑑別診断とその初期対応、周辺症状と身体合併症の急性期治療、専門医療相談等を実施する。	認知症疾患患者の専門医療相談、鑑別診断等を行っている。 【実績】認知症疾患センター相談件数(日本海総合病院) <table><tr><td>区 分</td><td>平成28年度</td><td>平成29年度</td><td>平成30年度</td><td>令和元年度</td></tr><tr><td>新規</td><td>502件</td><td>554件</td><td>478件</td><td>472件</td></tr><tr><td>継続</td><td>342件</td><td>340件</td><td>293件</td><td>225件</td></tr></table>	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	新規	502件	554件	478件	472件	継続	342件	340件	293件	225件	◇認知症疾患医療センターとしての役割を果たし相談等を実施したか。	B	▽認知症疾患患者の状況等に応じた専門医療相談、鑑別診断等を実施している。	B		
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																			
新規	502件	554件	478件	472件																			
継続	342件	340件	293件	225件																			
④ へき地医療拠点病院として、飛島診療所に医師を派遣するなど、地域住民の医療の確保に努める。	(エ)日本海総合病院は、へき地医療拠点病院として、地域住民への医療の提供を確保に努める。	へき地医療拠点病院として地域住民の医療の確保に努め、飛島診療所においては、医師の出張診療及び遠隔診療を行っている。 【実績】飛島診療所 医師出張診療回数 <table><tr><td>平成28年度</td><td>平成29年度</td><td>平成30年度</td><td>令和元年度</td></tr><tr><td>21回</td><td>16回</td><td>16回</td><td>16回</td></tr></table>	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	21回	16回	16回	16回	◇医師を派遣し、地域住民の医療の確保に努めたか。	B	▽救急センター、飛島診療所及び山形県ドクターヘリ等との連携を図り、救急患者のスムーズな受入れに努めた。	A									
平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																				
21回	16回	16回	16回																				
⑤ 地域において必要性の高い救急医療、周産期医療、小児医療を担う医療機関として、救急科専門医をはじめ各医療分野の専門医の確保に努める。	(オ)地域において必要性の高い救急医療、周産期医療、小児医療を担う医療機関として、救急科専門医をはじめ各医療分野の専門医の確保に努める。	各分野において専門医の資格を取得や更新など専門医の確保に努めた。救急科専門医1名を育成したほか、9名が専門医資格を取得した。 【実績】新たな専門医資格取得 <table><tr><td>区 分</td><td>人数</td></tr><tr><td>日本内科学会総合内科専門医</td><td rowspan="7">各1名</td></tr><tr><td>日本消化管学会胃腸科専門医</td></tr><tr><td>日本循環器学会循環器専門医</td></tr><tr><td>日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医</td></tr><tr><td>日本救急医学会救急科専門医</td></tr><tr><td>日本外科学会外科専門医</td></tr><tr><td>呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医</td></tr><tr><td>日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医</td><td rowspan="2">2名</td></tr><tr><td>日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門医</td></tr></table>	区 分	人数	日本内科学会総合内科専門医	各1名	日本消化管学会胃腸科専門医	日本循環器学会循環器専門医	日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医	日本救急医学会救急科専門医	日本外科学会外科専門医	呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医	日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医	2名	日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門医	◇救急科専門医をはじめ各医療分野の専門医の確保に努めたか。	B	▽各分野において専門医の資格を取得した。	B				
区 分	人数																						
日本内科学会総合内科専門医	各1名																						
日本消化管学会胃腸科専門医																							
日本循環器学会循環器専門医																							
日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医																							
日本救急医学会救急科専門医																							
日本外科学会外科専門医																							
呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医																							
日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医	2名																						
日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門医																							
⑥ 脳死下臓器移植について、提供施設として定期的に訓練や研修を行う。	(カ)脳死下臓器移植について、提供施設として研修を行う。	脳死下臓器移植について、提供施設として山形県臓器移植推進機構及び院内コーディネーターによるシミュレーションを実施した。 【実績】シミュレーション（日本海総合病院） <table><tr><td>実施日</td><td>研修名</td><td>参加人数</td></tr><tr><td>令和2年2月19日</td><td>「脳死下臓器提供の流れシミュレーション」 座長：脳神経外科 赤坂 雅弘診療部長</td><td>17名</td></tr></table>	実施日	研修名	参加人数	令和2年2月19日	「脳死下臓器提供の流れシミュレーション」 座長：脳神経外科 赤坂 雅弘診療部長	17名	◇提供施設として研修を行ったか。	B	▽提供施設としてシミュレーションを実施し、対応時における懸案事項等の確認を行った。 院内コーディネーター 9名	A											
実施日	研修名	参加人数																					
令和2年2月19日	「脳死下臓器提供の流れシミュレーション」 座長：脳神経外科 赤坂 雅弘診療部長	17名																					

第3期中期計画（平成28年度～令和元年度）	令和元年度計画	令和元年度実績【実施状況及び業務運営の状況】	評価の視点	自己 評価	評価の理由等	H30 評価	評価	設立団体の評価															
(2)医療スタッフの確保及び資質向上	(2)医療スタッフの確保及び資質向上																						
ア 医療人材の確保・育成	ア 医療人材の確保・育成																						
① 高度専門医療等の安定的な提供を図るため、専門資格を有する医療従事者の確保・育成に努める。	(ア)日本海総合病院は、高度専門医療等の安定的な提供を図るため、専門資格を有する医療従事者の確保・育成に努める。	高度専門医療等の安定的な提供を図るため、積極的な研修、学会等への参加など、専門資格を有する医療従事者の確保・育成に努めた。 【実績】専門研修等への派遣状況(令和元年度分) <table><tr><th>区 分</th><th>人 数</th></tr><tr><td>がんゲノム医療従事者養成研修会</td><td>認定看護師3名、検査技師2名、看護師2名、遺伝カウンセラー1名</td></tr><tr><td>アブレーション研修</td><td>医師2名</td></tr><tr><td>ダヴィンチ技術研修</td><td>医師4名、看護師4名、ME2名</td></tr><tr><td>マンモグラフィ更新技術講習会</td><td>放射線技師1名</td></tr><tr><td>心臓リハビリテーション指導士講習</td><td>検査技師2名</td></tr><tr><td>乳房超音波技師講習会</td><td>検査技師2名</td></tr></table>	区 分	人 数	がんゲノム医療従事者養成研修会	認定看護師3名、検査技師2名、看護師2名、遺伝カウンセラー1名	アブレーション研修	医師2名	ダヴィンチ技術研修	医師4名、看護師4名、ME2名	マンモグラフィ更新技術講習会	放射線技師1名	心臓リハビリテーション指導士講習	検査技師2名	乳房超音波技師講習会	検査技師2名	◇高度専門医療等の安定的な提供を図るため、専門資格を有する医療従事者の確保・育成に努めたか。	B	▽職員を多数学会等に派遣するなど、専門資格を有する医療従事者を育成した。	B			
区 分	人 数																						
がんゲノム医療従事者養成研修会	認定看護師3名、検査技師2名、看護師2名、遺伝カウンセラー1名																						
アブレーション研修	医師2名																						
ダヴィンチ技術研修	医師4名、看護師4名、ME2名																						
マンモグラフィ更新技術講習会	放射線技師1名																						
心臓リハビリテーション指導士講習	検査技師2名																						
乳房超音波技師講習会	検査技師2名																						
② 新しい専門医制度の開始に伴い、内科領域と産婦人科領域の基幹施設として申請する。また、新たに基幹施設とする専門領域がある場合は、関連大学等との調整の上申請する。 ※H30.3変更	(イ)日本海総合病院は、専門医制度の基幹施設(内科、外科、産婦人科)として専門研修プログラムの管理運営を行う。	専門医制度の基幹施設(内科、外科、産婦人科)として内科専攻医2名、外科専攻医1名、産婦人科専攻医1名を採用し、専門研修プログラムの管理運営を行った。 【実績】専攻医採用状況 <table><tr><th>区 分</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>領域</td><td>内 科</td><td>内 科</td><td>外 科</td><td>産婦人科</td></tr><tr><td>人数</td><td>4名</td><td>2名</td><td>1名</td><td>1名</td></tr></table>	区 分	平成30年度	令和元年度	領域	内 科	内 科	外 科	産婦人科	人数	4名	2名	1名	1名	◇新しい専門医制度の開始に伴い、関連大学等との調整及び研修プログラムを策定したか。	A	▽内科、産婦人科、外科の基幹施設として、専攻医の採用及びプログラムの管理運営を行った。	A				
区 分	平成30年度	令和元年度																					
領域	内 科	内 科	外 科	産婦人科																			
人数	4名	2名	1名	1名																			
③ 臨床研修医及びレジデント(専門分野の研修医)の受入れ、医師の確保に努める。	(ウ)日本海総合病院は、臨床研修医及びレジデント(専門分野の研修医)の受入れ、医師の確保に努める。	臨床研修医31名、レジデント36名の受け入れを行った。 【実績】臨床研修医及びレジデント受入れ人数 <table><tr><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>53名</td><td>61名</td><td>62名</td><td>67名</td></tr></table>	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	53名	61名	62名	67名	◇臨床研修医及びレジデントの受入れ、医師の確保に努めたか。	B	▽前年度比5名増となる、合計67名の臨床研修医及びレジデントを受け入れた。	A									
平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																				
53名	61名	62名	67名																				
④ 地方独立行政法人那覇市立病院と、2年次目の臨床研修医について、交換地域医療研修を実施する。	(エ)日本海総合病院は、地方独立行政法人那覇市立病院と、2年次目の臨床研修医について、交換地域医療研修を実施する。	地方独立行政法人那覇市立病院の2年次臨床研修医3名と日本海総合病院2年次臨床研修医7名の交換地域医療研修を実施した。 【実績】交換地域医療研修 <table><tr><th>区 分</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>日本海総合病院</td><td>4名</td><td>8名</td><td>9名</td><td>7名</td></tr><tr><td>那覇市立病院</td><td>1名</td><td>2名</td><td>1名</td><td>3名</td></tr></table>	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	日本海総合病院	4名	8名	9名	7名	那覇市立病院	1名	2名	1名	3名	◇那覇市立病院との間で、交換地域医療研修を実施したか。	B	▽那覇市立病院との交換地域医療研修を実施した。	B		
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																			
日本海総合病院	4名	8名	9名	7名																			
那覇市立病院	1名	2名	1名	3名																			
⑤ 教育・研修体制の充実及び自己研鑽・研究のサポート体制の充実に努め、各職種の専門性の向上を図る。	(オ)教育・研修体制の充実及び自己研鑽・研究のサポート体制の充実に努め、各職種の専門性の向上を図る。	基本研修に加え、専門性の向上を図るため各部門独自による専門能力を高める研修を行うなど、教育・研修体制の充実及び自己研鑽・研究のサポート体制の充実に努めた。	◇教育・研修体制の充実及び自己研鑽・研究のサポート体制の充実に努め、各職種の専門性の向上を図ったか。	B	▽職員研修規程に基づき、役職別、部門別研修を行った。また、特別研修としてメディエーション研修を実施した。	B																	
⑥ 優秀な看護師又は助産師を育成・確保するため、看護師等修学資金貸与制度を継続して実施する。	(カ)優秀な看護師又は助産師を育成・確保するため、看護師等修学資金貸与制度を継続して実施する。	看護師等修学資金貸与を継続して行い、新規貸与者5名を含む計16名に修学資金の貸与を実施し、貸与終了者8名が当機構職員として入職した。 【実績】修学資金の貸与 <table><tr><th>区 分</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>貸与者</td><td>14名</td><td>16名</td><td>17名</td><td>16名</td></tr><tr><td>入職者</td><td>2名</td><td>2名</td><td>6名</td><td>8名</td></tr></table>	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	貸与者	14名	16名	17名	16名	入職者	2名	2名	6名	8名	◇修学資金の貸与を継続して実施したか。	B	▽貸与終了者8名全員が当病院機構に入職し、人材確保につながった。	A		
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																			
貸与者	14名	16名	17名	16名																			
入職者	2名	2名	6名	8名																			
	(キ)認定看護師等の資格を取得するため、看護師を研修に派遣する。	看護師の特定行為研修に派遣した。 【実績】認定看護師等研修派遣 <table><tr><th>区 分</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>認定看護師</td><td>1名</td><td>2名</td><td>1名</td><td>-</td></tr><tr><td>特定行為研修</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>2名</td></tr></table>	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	認定看護師	1名	2名	1名	-	特定行為研修	-	-	-	2名	◇認定看護師の資格取得のため看護師を研修に派遣したか。	B	▽在宅ケアモデル1名、創傷管理モデル1名派遣	B		
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																			
認定看護師	1名	2名	1名	-																			
特定行為研修	-	-	-	2名																			

第3期中期計画（平成28年度～令和元年度）	令和元年度計画	令和元年度実績【実施状況及び業務運営の状況】	評価の視点	自己 評定	評定の理由等	H30 評定	評定	設立団体の評価																									
イ 事務職員の確保と専門性の向上	イ 事務職員の確保と専門性の向上																																
① 診療情報管理士等の専門資格の取得及び研修の充実により、事務職員の資質向上を図る。	(ア)診療情報管理士等の専門資格の取得及び研修の充実により、事務職員の資質向上を図る。	診療情報管理士等の専門資格の取得及び研修参加等により、事務職員の資質向上に努めた。	◇専門資格の取得及び研修の充実により、事務職員の資質向上を図ったか。	B	▽診療情報管理士通信教育(2年間)を2名が受講し、うち1名が診療情報管理士の資格を取得した。	B																											
② 病院運営の高度化・複雑化に対応できる組織を作るため、専門的知識と病院経営を俯瞰できるマネジメント力を兼ね備えた事務職員の育成に取り組む。	(イ)病院運営の高度化・複雑化に対応できる組織を作るため、専門的知識と病院経営を俯瞰できるマネジメント力を兼ね備えた事務職員の育成に取り組む。	医療職とともにメディエーション研修に参加し専門的知識を高め、また、新規採用事務職員を対象に業務遂行能力向上を目的としたOJT研修を実施した。	◇専門的知識と病院経営を俯瞰できるマネジメント力を兼ね備えた事務職員の育成に取り組んだか。	B	▽事務能力向上を目的とした各種研修会等への参加による取り組みを行った。	B																											
ウ 職員の勤務環境の改善	ウ 職員の勤務環境の改善																																
① 職員が仕事に誇りを持ち、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を確保し、意欲的かつ安心して業務に従事できる環境づくりに努める。	(ア)職員が仕事に誇りを持ち、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を確保し、意欲的かつ安心して業務に従事できる環境づくりに努める。	職員のワーク・ライフ・バランスの確保や意欲的かつ安心して業務に従事できる環境づくりとして、育児短時間勤務、病児・病後児保育、夜間保育などの活用を推進し、働きやすい職場作りに努めた。 【実績】利用者数(延人数) <table><tr><th>区 分</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>育児短時間勤務</td><td>1名</td><td>1名</td><td>0名</td><td>0名</td></tr><tr><td>病児・病後児保育(職員利用)</td><td>90名</td><td>105名</td><td>92名</td><td>95名</td></tr><tr><td>夜間保育</td><td>4名</td><td>4名</td><td>28名</td><td>85名</td></tr></table>	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	育児短時間勤務	1名	1名	0名	0名	病児・病後児保育(職員利用)	90名	105名	92名	95名	夜間保育	4名	4名	28名	85名	◇意欲的かつ安心して業務に従事できる環境づくりに努めたか。	B	▽病児・病後児保育等の活用を推進した。 職員利用者延べ人数 95人	B							
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																													
育児短時間勤務	1名	1名	0名	0名																													
病児・病後児保育(職員利用)	90名	105名	92名	95名																													
夜間保育	4名	4名	28名	85名																													
② 家族の介護や子育て等を行う医師を支援するとともに、医師のキャリアパスに配慮し、短時間正職員制度など多様な勤務形態を取り入れる。	(イ)家族の介護や子育て等を行う医師を支援するとともに、医師のキャリアパスに配慮し、短時間正職員制度など多様な勤務形態を取り入れる。	家族の介護や子育て等を行う医師の支援として、女性医師に対するベビーシッター等利用料の助成を行った。また、医師のキャリアパスに配慮し、短時間正職員制度など多様な勤務形態を継続して実施した。 【実績】医師短時間職員制度等利用状況 <table><tr><th>区 分</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>医師短時間</td><td>1名</td><td>2名</td><td>3名</td><td>3名</td></tr><tr><td>育児部分休業</td><td>-</td><td>1名</td><td>1名</td><td>1名</td></tr><tr><td>ベビーシッター等助成金</td><td>-</td><td>1名</td><td>2名</td><td>2名</td></tr><tr><td>ハウスクリーニング等助成金</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>2名</td></tr></table>	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	医師短時間	1名	2名	3名	3名	育児部分休業	-	1名	1名	1名	ベビーシッター等助成金	-	1名	2名	2名	ハウスクリーニング等助成金	-	-	-	2名	◇短時間正職員制度など多様な勤務形態を取り入れたか。	B	▽助成金による支援制度を新たに取り入れた。	A		
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																													
医師短時間	1名	2名	3名	3名																													
育児部分休業	-	1名	1名	1名																													
ベビーシッター等助成金	-	1名	2名	2名																													
ハウスクリーニング等助成金	-	-	-	2名																													
③ 病棟看護師の負担軽減と勤務形態の多様化を図るため、二交代制勤務の導入を検討する。				-		-																											
④ 医師をはじめとする医療従事者の負担軽減を図り、効率的に業務を遂行するため、クラーク及び補助者の担当業務の拡大を検討・実施する。	(ウ)医師をはじめとする医療従事者の負担軽減を図り、効率的に業務を遂行するため、クラーク及び補助者の担当業務の拡大を検討・実施する。	病棟及び外来に医師事務作業補助者(医事クラーク)を配置し、医師をはじめとする医療従事者の負担軽減を図っている。 【実績】医事クラーク配置数 <table><tr><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>64名</td><td>64名</td><td>66名</td><td>69名</td></tr></table>	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	64名	64名	66名	69名	◇クラーク及び補助者の担当業務の拡大を検討・実施したか。	B	▽医事クラークの適正配置に努めた。	B																			
平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																														
64名	64名	66名	69名																														

第3期中期計画（平成28年度～令和元年度）	令和元年度計画	令和元年度実績【実施状況及び業務運営の状況】	評価の視点	自己 評定	評定の理由等	H30 評定	評定	設立団体の評価																				
（3）医療サービスの効果的な提供	（3）医療サービスの効果的な提供																											
ア 地域連携の推進	ア 地域連携の推進																											
① 良質な医療サービスを効果的に提供するため、庄内二次医療圏における中核的な医療機関としての役割を果たし、他の医療機関との連携を推進し、日本海総合病院においては、地域医療支援病院の指定要件である紹介率50%かつ逆紹介率70%以上を目標とする。	（ア）日本海総合病院は、良質な医療サービスを効果的に提供するため、庄内二次医療圏における中核的な医療機関としての役割を果たし、他の医療機関との連携を推進し、地域医療支援病院の指定要件である紹介率50%かつ逆紹介率70%以上を目標とする。	他の医療機関との連携の推進により、地域医療支援病院の指定要件である紹介率50%、逆紹介率70%以上を達成した。 【実績】紹介率、逆紹介率 <table><tr><th>区 分</th><th>目標値</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>紹介率</td><td>50%以上</td><td>64.4%</td><td>65.5%</td><td>68.0%</td><td>68.5%</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>70%以上</td><td>97.2%</td><td>100.5%</td><td>101.5%</td><td>100.6%</td></tr></table>	区 分	目標値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	紹介率	50%以上	64.4%	65.5%	68.0%	68.5%	逆紹介率	70%以上	97.2%	100.5%	101.5%	100.6%	◇日本海総合病院は他の医療機関との連携を推進したか。	S	▽連携協力医等との役割分担及び連携の強化を図り、目標値である地域医療支援病院の指定要件、紹介率50%以上かつ逆紹介率70%以上を大幅に上回っている。	S				
区 分	目標値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																							
紹介率	50%以上	64.4%	65.5%	68.0%	68.5%																							
逆紹介率	70%以上	97.2%	100.5%	101.5%	100.6%																							
② 山形県立こころの医療センターとの「医療観察法対象者の入院受入協定書」及び「医療連携及び緊急時の患者搬送措置に関する覚書」に基づき、入院患者の身体合併症に連携して対応する。	（イ）日本海総合病院は、山形県立こころの医療センターとの「医療観察法対象者の入院受入協定書」及び「医療連携及び緊急時の患者搬送措置に関する覚書」、並びに医療法人山容会山容病院との「医療連携及び緊急時の患者搬送措置に関する覚書」に基づき、入院患者の身体合併症に連携して対応する。	山形県立こころの医療センター及び医療法人山容会山容病院との協定等に基づく受入体制を整えている。	◇協定書等に基づき、連携して身体合併症患者の受入れに対応したか。	B	▽協定書等に基づく対応が行えるよう備えている。	B																						
③ 患者の広域化に対応し、ICTを活用して地域、医療圏を超えた医療連携を推進する。	（ウ）日本海総合病院は、患者の広域化に対応し、ICTを活用して地域、医療圏を超えた医療連携を推進する。	ICTの有効な活用による、地域及び医療圏を超えた広域連携の推進に努めた。また、秋田県と山形県による広域連携に関する協定が締結された。	◇地域、医療圏を超えた医療連携を推進したか。	A	▽全県域におけるネットワーク広域化による、医療圏を跨いだ連携を行っている。また、県境医療に対応するため、山形県と秋田県との連携について協定締結に協力した。	S																						
④ 地域包括ケアシステムの構築に向けて、行政機関、地域の介護・福祉施設等との連携を強化し、退院後の医療支援や施設入所のための情報共有を図り、医療・介護・福祉へと切れ目のないサービスの提供に努める。	（エ）地域包括ケアシステムの構築に向けて、行政機関、地域の介護・福祉施設等との連携を強化し、退院後の医療支援や施設入所のための情報共有を図り、医療・介護・福祉へと切れ目のないサービスの提供に努める。	退院時共同指導や行政機関、地域の介護・福祉施設等との連携を強化し、退院後の医療支援や施設入所のための情報共有を図り、により、介護・福祉機関との積極的な情報交換に取り組み、医療から介護・福祉へと切れ目のないサービスの提供に努めている。 【実績】指導件数（日本海総合病院） <table><tr><th></th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>退院時共同指導</td><td>90件</td><td>84件</td><td>138件</td><td>194件</td></tr><tr><td>介護支援連携指導</td><td>1,077件</td><td>909件</td><td>1,068件</td><td>1,237件</td></tr></table>		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	退院時共同指導	90件	84件	138件	194件	介護支援連携指導	1,077件	909件	1,068件	1,237件	◇医療・介護・福祉へと切れ目のないサービスの提供に努めたか。	B	▽指導件数については、前年度に比べ増加している。	A							
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																								
退院時共同指導	90件	84件	138件	194件																								
介護支援連携指導	1,077件	909件	1,068件	1,237件																								
	（オ）日本海総合病院は、地域の医療を確保するため、鶴岡市立荘内病院の診療支援を行う。	鶴岡市立荘内病院の耳鼻咽喉・頭頸部外科、心血管外科及び呼吸器外科について、日本海総合病院の医師による診療支援を行い地域医療の確保に努めた。 【荘内病院への診療支援状況】 <table><tr><th>診療科</th><th>回数</th></tr><tr><td>耳鼻咽喉・頭頸部外科</td><td rowspan="3">週1回</td></tr><tr><td>心血管外科</td></tr><tr><td>呼吸器外科</td></tr></table>	診療科	回数	耳鼻咽喉・頭頸部外科	週1回	心血管外科	呼吸器外科	◇鶴岡市立荘内病院の診療支援を行ったか。	B	▽3診療科において、それぞれ週1回の診療支援を行った。	－																
診療科	回数																											
耳鼻咽喉・頭頸部外科	週1回																											
心血管外科																												
呼吸器外科																												
	（カ）日本海総合病院は、地域医療連携推進法人日本海ヘルスケアネットが実施する地域フォーミュラ事業を、地域の医療機関等とともに推進する。	平成30年度に全国で初めて地域フォーミュラを実施し、令和元年度は新たに4薬剤を選定、全部で8種類の医薬品で進めている。推奨医薬品の選定基準を見直し、公平性、透明性、明示性を担保しながら、主に安定供給、品質、価格の面から厳密に評価分析を実施した。北庄内地域の関係機関で地域フォーミュラを推進し、この地域で月約9百万円の医療費削減効果があった。	◇地域フォーミュラを推進し、地域の医療費の適正化等に努めたか。	B	▽令和元年度は新たに4薬剤を選定し、全部で8種類の医薬品で地域フォーミュラを推進した。北庄内地域で一定の医療費削減効果があった。	－																						
イ 診療情報の共有化	イ 診療情報の共有化																											
① 庄内二次医療圏全体で、効率的で適切な医療やケアを提供するため、地域医療情報ネットワーク等のICTを活用し、他の医療機関や介護・福祉施設等との診療情報の共有化を推進する。	（ア）庄内二次医療圏全体で、効率的で適切な医療やケアを提供するため、地域医療情報ネットワーク等のICTを活用し、他の医療機関や介護・福祉施設等との診療情報の共有化を推進する。	服薬管理を充実させるため「お薬情報共有システム」と「ちようかいネット」において連携を行い、情報の共有化の推進を図った。ちようかいネット登録患者数及び施設数については、共に増加している。 【実績】登録患者数等 <table><tr><th>区 分</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>登録患者数</td><td>26,619名</td><td>32,401名</td><td>37,981名</td><td>43,789名</td></tr><tr><td>開示施設数</td><td>6施設</td><td>7施設</td><td>7施設</td><td>8施設</td></tr><tr><td>閲覧施設数</td><td>171施設</td><td>186施設</td><td>198施設</td><td>238施設</td></tr></table>	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	登録患者数	26,619名	32,401名	37,981名	43,789名	開示施設数	6施設	7施設	7施設	8施設	閲覧施設数	171施設	186施設	198施設	238施設	◇ICTを活用し、他の医療機関や介護・福祉施設等との診療情報の共有化を推進したか。	S	▽昨年度比較、登録患者数、5,808人の増加、開示施設が1施設及び閲覧施設が40施設増加するなど、診療情報の共有化がより推進された。	S		
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																								
登録患者数	26,619名	32,401名	37,981名	43,789名																								
開示施設数	6施設	7施設	7施設	8施設																								
閲覧施設数	171施設	186施設	198施設	238施設																								
② 国等が行う、新たなICTを活用した実証実験に協力する。	（イ）日本海総合病院は、国等が新たなICTを活用した実証実験を行う場合はこれに協力する。	日本海総合病院は、総務省の「医療等分野のネットワーク利活用モデル構築にかかる調査研究」に参加し、マイナンバーカード及びJAHIS院外処方箋二次元シンボル記録条件規約に基づいたQRコード情報による処方内容確認について実証実験を行った。	◇国等の新たなICTを活用した実証実験に協力したか。	B	▽ICTを活用した実証実験に協力した。	－																						

第3期中期計画（平成28年度～令和元年度）	令和元年度計画	令和元年度実績【実施状況及び業務運営の状況】	評価の視点	自己 評定	評定の理由等	H30 評定	評定	設立団体の評価																																																												
ウ 地域連携クリティカルパスの活用	ウ 地域連携クリティカルパスの活用（日本海総合病院）																																																																			
① 効率的で適切な医療を提供するため、地域連携クリティカルパスの活用を推進する。	効率的で適切な医療を提供するため、地域連携クリティカルパスの活用を推進する。	患者への負担軽減及び他の医療機関との機能分担を図りながら、地域連携クリニカルパスを継続して活用した。 【実績】地域連携クリニカルパス適用件数 <table><tr><th>区 分</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>肺がん</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>大腸がん</td><td>11件</td><td>6件</td><td>18件</td><td>7件</td></tr><tr><td>肝がん</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>乳がん</td><td>16件</td><td>9件</td><td>8件</td><td>13件</td></tr><tr><td>胃がん</td><td>19件</td><td>10件</td><td>13件</td><td>13件</td></tr><tr><td>大腿骨頸部骨折</td><td>128件</td><td>105件</td><td>117件</td><td>120件</td></tr><tr><td>脳卒中</td><td>195件</td><td>149件</td><td>159件</td><td>218件</td></tr><tr><td>心臓リハビリテーション</td><td>116件</td><td>108件</td><td>150件</td><td>169件</td></tr><tr><td>前立腺がん</td><td>65件</td><td>24件</td><td>32件</td><td>9件</td></tr></table> 【実績】地域連携診療計画加算（日本海総合病院） <table><tr><th>区 分</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>算定件数</td><td>295件</td><td>248件</td><td>276件</td><td>336件</td></tr></table>	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	肺がん	-	-	-	-	大腸がん	11件	6件	18件	7件	肝がん	-	-	-	-	乳がん	16件	9件	8件	13件	胃がん	19件	10件	13件	13件	大腿骨頸部骨折	128件	105件	117件	120件	脳卒中	195件	149件	159件	218件	心臓リハビリテーション	116件	108件	150件	169件	前立腺がん	65件	24件	32件	9件	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	算定件数	295件	248件	276件	336件	◇地域連携クリニカルパスの活用を推進したか。	B	▽地域連携クリニカルパスを活用し効率的な医療の提供した。	B		
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																																
肺がん	-	-	-	-																																																																
大腸がん	11件	6件	18件	7件																																																																
肝がん	-	-	-	-																																																																
乳がん	16件	9件	8件	13件																																																																
胃がん	19件	10件	13件	13件																																																																
大腿骨頸部骨折	128件	105件	117件	120件																																																																
脳卒中	195件	149件	159件	218件																																																																
心臓リハビリテーション	116件	108件	150件	169件																																																																
前立腺がん	65件	24件	32件	9件																																																																
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																																
算定件数	295件	248件	276件	336件																																																																
② 地域で支える「地域完結型医療」を推進するため、新たな地域連携クリティカルパスの導入に努める。			-	-		-																																																														
（４）教育研修事業の充実	（４）教育研修事業の充実																																																																			
ア 庄内地域における医療水準の向上	ア 庄内地域における医療水準の向上 （日本海総合病院）																																																																			
① 庄内二次医療圏の中核的な医療機関として、関連大学の医学生を受け入れるなど、質の高い医療従事者の育成に努める。	（ア）庄内二次医療圏の中核的な医療機関として、関連大学の医学生を受け入れるなど、質の高い医療従事者の育成に努める。	臨床研修医及びレジデントの受入れ並びに山形大学からのスチューデントドクター及び東北大学からの地域医療実習生を継続して受け入れを行い、質の高い医療従事者の育成に努めた。 【実績】臨床研修医等の受入れ状況 <table><tr><th>区 分</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>臨床研修医</td><td>28名</td><td>34名</td><td>29名</td><td>31名</td></tr><tr><td>レジデント</td><td>26名</td><td>27名</td><td>33名</td><td>36名</td></tr><tr><td>スチューデントドクター（山形大学）</td><td>75名</td><td>70名</td><td>85名</td><td>85名</td></tr><tr><td>臨床医学修練生（東北大学）</td><td>1名</td><td>5名</td><td>2名</td><td>1名</td></tr><tr><td>地域医療実習生（東北大学）</td><td>5名</td><td>6名</td><td>0名</td><td>0名</td></tr></table>	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	臨床研修医	28名	34名	29名	31名	レジデント	26名	27名	33名	36名	スチューデントドクター（山形大学）	75名	70名	85名	85名	臨床医学修練生（東北大学）	1名	5名	2名	1名	地域医療実習生（東北大学）	5名	6名	0名	0名	◇質の高い医療従事者の育成に努めたか。	B	▽関連大学の医学生を受け入れるなど、質の高い医療従事者の育成に努めた。	B																																
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																																
臨床研修医	28名	34名	29名	31名																																																																
レジデント	26名	27名	33名	36名																																																																
スチューデントドクター（山形大学）	75名	70名	85名	85名																																																																
臨床医学修練生（東北大学）	1名	5名	2名	1名																																																																
地域医療実習生（東北大学）	5名	6名	0名	0名																																																																
② 酒田市立酒田看護専門学校の実習施設として、優秀な看護師を育成するため、看護教員の養成を図る。	（イ）酒田市立酒田看護専門学校の実習施設として、優秀な看護師を育成するため、看護教員の養成を図る。	酒田市立酒田看護専門学校の看護教員1名を、教務主任養成講習会に参加させるなど技能向上等に努めた。	◇看護教員を養成したか。	B	▽教務主任養成講習会受講による技能向上に努めた。 研修期間7/22～8/22、12/24～1/10	B																																																														
③ 救急救命士の病院実習を受け入れ、救急医療の水準向上を図る。	（ウ）救急救命士の病院実習を受け入れ、救急医療の水準向上を図る。	救急救命士養成課程の臨床実習、就業前研修、再教育実習及び山形県消防学校救急科の病院実習を実施し、計47名の実習生の受入れを行った。 【実績】実習生受入人数 <table><tr><th>区 分</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>臨床実習</td><td>3名</td><td>3名</td><td>3名</td><td>2名</td></tr><tr><td>就業前研修</td><td>5名</td><td>1名</td><td>1名</td><td>3名</td></tr><tr><td>再教育実習</td><td>41名</td><td>39名</td><td>38名</td><td>37名</td></tr><tr><td>病院実習</td><td>15名</td><td>17名</td><td>10名</td><td>5名</td></tr><tr><td>計</td><td>64名</td><td>60名</td><td>52名</td><td>47名</td></tr></table>	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	臨床実習	3名	3名	3名	2名	就業前研修	5名	1名	1名	3名	再教育実習	41名	39名	38名	37名	病院実習	15名	17名	10名	5名	計	64名	60名	52名	47名	◇救急救命士の実習を受け入れ、救急医療の水準向上を図ったか。	B	▽前年度に引き続き、救命救急センターで救急救命士養成課程の臨床実習、就業前研修、再教育実習及び山形県消防学校救急科の病院実習を受け入れ、救急医療の水準向上を図った。	B																																
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																																
臨床実習	3名	3名	3名	2名																																																																
就業前研修	5名	1名	1名	3名																																																																
再教育実習	41名	39名	38名	37名																																																																
病院実習	15名	17名	10名	5名																																																																
計	64名	60名	52名	47名																																																																

第3期中期計画（平成28年度～令和元年度）		令和元年度計画	令和元年度実績【実施状況及び業務運営の状況】	評価の視点	自己 評定	評定の理由等	H30 評定	評定	設立団体の評価												
イ 住民意識の啓発活動		イ 住民意識の啓発活動（日本海総合病院）																			
① 住民を対象としたセミナー及び病院広報紙「あきほ」等を活用し、医療や健康に関する情報発信を行う。		(ア)住民を対象としたセミナー及び病院広報紙「あきほ」等を活用し、医療や健康に関する情報発信を行う。	住民対象のセミナーとして、生涯学習施設「里仁館」で開催された健康講座に、講師として職員を派遣するとともに、広報紙「あきほ」を年4回発行し、医療や健康に関する情報発信を行った。 【実績】健康講座 <table><tr><th>開催日</th><th>内容</th><th>講師</th></tr><tr><td>令和元年5月22日</td><td>転倒予防とリハビリテーション</td><td>作業療法士</td></tr><tr><td>令和元年6月5日</td><td>一般外科の救急疾患と外科医の1日</td><td>医師</td></tr><tr><td>令和元年7月10日</td><td>耳鼻咽喉科の病気について</td><td>医師</td></tr></table>	開催日	内容	講師	令和元年5月22日	転倒予防とリハビリテーション	作業療法士	令和元年6月5日	一般外科の救急疾患と外科医の1日	医師	令和元年7月10日	耳鼻咽喉科の病気について	医師	◇医療や健康に関する情報発信をしたか。	B	▽地域でのセミナー及び広報紙により情報発信に努めた。	B		
開催日	内容	講師																			
令和元年5月22日	転倒予防とリハビリテーション	作業療法士																			
令和元年6月5日	一般外科の救急疾患と外科医の1日	医師																			
令和元年7月10日	耳鼻咽喉科の病気について	医師																			
② 住民の健康意識の向上のため、関係機関と連携し啓発活動に努める。		(イ)住民の健康意識の向上のため、関係機関と連携し啓発活動に努める。	住民の健康意識向上、がんに関する知識、情報の普及啓発を目的とし、地域住民を対象に市民公開講座を開催した。 【実績】がん拠点病院公開市民講座 <table><tr><th>開催日</th><th>研修内容等</th><th>参加人数</th></tr><tr><td>令和元年7月28日</td><td>「がんを通して学ぶ、現代の死生観」 保坂サイコオンコロジー・クリニック院長 聖路加国際病院 診療教育アドバイザー 保坂 隆 氏</td><td>151名</td></tr></table>	開催日	研修内容等	参加人数	令和元年7月28日	「がんを通して学ぶ、現代の死生観」 保坂サイコオンコロジー・クリニック院長 聖路加国際病院 診療教育アドバイザー 保坂 隆 氏	151名	◇健康意識の向上のため、地域住民に対し、啓発活動を行ったか。	B	▽地域がん診療連携拠点病院として、酒田市、酒田地区医師会及び庄内保健所と連携し、住民の健康意識向上や、がんに関する情報発信と啓発活動を行った。	B								
開催日	研修内容等	参加人数																			
令和元年7月28日	「がんを通して学ぶ、現代の死生観」 保坂サイコオンコロジー・クリニック院長 聖路加国際病院 診療教育アドバイザー 保坂 隆 氏	151名																			
3 患者・住民の満足度の向上		3 患者・住民の満足度の向上																			
① 患者やその家族の満足度を高めるため、アンケート調査の実施等により、そのニーズを把握しサービスの向上に努めるとともに、新たな患者利便施設について検討する。		(1)日本海総合病院は、患者やその家族の満足度を高めるため、アンケート調査の実施等により、そのニーズを把握しサービスの向上に努める。	日本海総合病院は、患者やその家族のニーズを把握するためアンケート調査を実施し、また、接遇に関する外部調査を行い、その結果を踏まえて接遇向上研修会を開催するなど満足度の向上に努めた。	◇患者ニーズの把握と新たな患者利便施設の検討を行ったか。	B	▽医療メディエーション室と連携し、院内投書箱等に寄せられた要望などへの迅速な対応に努めた。	B														
② 来院者の意見を取り入れ、院内環境等の快適性の向上、受付から会計までの在院時間や入院手続きの改善に努める。		(2)日本海総合病院は、来院者の意見を取り入れ、院内環境等の快適性の向上、受付から会計までの在院時間や入院手続きの改善に努める。	入退院支援センターの運用を開始し、入院及び退院手続き等の改善を図った。また、患者向けの図書コーナー、休憩スペースの改善や手術時の家族の待機時の改善など、院内環境等の向上に努めた。	◇院内環境等の快適性の向上、受付から会計までの在院時間や入院手続きの改善に努めたか。	A	▽入退院支援センターの運用開始により、スムーズな入院体制の構築を図るとともに、入院前から多職種の連携による患者のリスク把握及び評価とよりよい入院・治療計画の提供に努めた。 入院前スクリーニング実施件数 777件	A														
③ 山形県が策定した地域医療構想を踏まえ、それぞれの病院及び診療所の役割等を、ホームページ、病院広報紙「あきほ」、市広報等を活用してPRする。		(3)山形県地域医療構想を踏まえ、それぞれの病院及び診療所の役割等を、ホームページ、病院広報紙「あきほ」、市広報等を活用してPRする。	各病院及び診療所の役割等を、ホームページ、病院広報紙「あきほ」及び市広報等を活用してPRに努めた。	◇病院の役割をPRしたか。	B	▽広報誌あきほを4回発行し病院の役割、診療科の紹介等を行った。（3,000部/回） ▽ホームページにおいて、病院の情報を発信した。	B														
4 法令等の遵守と情報公開の推進		4 法令等の遵守と情報公開の推進																			
① 職員一人ひとりが、山形県・酒田市病院機構倫理綱領に従って行動し、コンプライアンスの周知徹底に取り組む。		(1)職員一人ひとりが、山形県・酒田市病院機構倫理綱領に従って行動し、コンプライアンスの周知徹底に取り組む。	職員研修において、法人の基本理念、倫理綱領及び法令順守等の周知徹底に取り組んだ。	◇コンプライアンスの周知徹底に取り組んだか。	B	▽周知徹底に取り組んだ。	B														
② 山形県・酒田市病院機構における各病院の経営状況を公開する。		(2)山形県・酒田市病院機構における各病院等の経営状況を公開する。	各病院及び診療所の経営状況を病院概要の発行及びホームページにおいて公表した。	◇経営状況を公開したか。	B	▽ホームページにおいて財務諸表を公開した。	B														
③ カルテ等医療情報の開示は、山形県情報公開条例及び山形県個人情報保護条例に基づき、県の機関に準じて適切に対応する。		(3)カルテ等医療情報の開示は、山形県情報公開条例及び山形県個人情報保護条例に基づき、県の機関に準じて適切に対応する。	カルテ等医療情報の情報開示については、山形県情報公開条例及び個人情報保護条例の適用のもとに、県の機関に準じて行っている。 【実績】診療情報提供申出件数(日本海総合病院) <table><tr><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>60件</td><td>56件</td><td>61件</td><td>40件</td></tr></table>	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	60件	56件	61件	40件	◇情報開示請求に適切に対応したか。	B	▽県の機関に準じて、適切に対応している。	B						
平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																		
60件	56件	61件	40件																		
④ 適切な情報管理や情報セキュリティ対策の強化を図るため、職員及び「ちようかいネット」の利用者等を対象に研修を行う。		(4)適切な情報管理や情報セキュリティ対策の強化を図るため、職員及び「ちようかいネット」の利用者等を対象に研修を行う。	適切な情報管理や情報セキュリティ対策の強化を図るため、「ちようかいネット」利用者等を対象に資料と基本的な情報セキュリティについて解説等を行った。また、新規採用職員研修においてセキュリティ教育を実施した。 【実績】ちようかいネットセキュリティ研修会 <table><tr><th>区 分</th><th>参加状況</th></tr><tr><td>新規に参加した介護事業者等</td><td>13施設・17名</td></tr></table>	区 分	参加状況	新規に参加した介護事業者等	13施設・17名	◇職員及び「ちようかいネット」利用者に研修を行ったか。	B	▽ちようかいネット参加施設に対し、サイバー攻撃の手法や対応について研修等を行い、標的型メール攻撃等に対する注意喚起等を行った。全施設に対してIPA発行の資料の配布を行った。	A										
区 分	参加状況																				
新規に参加した介護事業者等	13施設・17名																				

第3期中期計画（平成28年度～令和元年度）	令和元年度計画	令和元年度実績【実施状況及び業務運営の状況】	評価の視点	自己 評定	評定の理由等	H30 評定	評定	設立団体の評価																					
5 医療安全対策の充実・強化	5 医療安全対策の充実・強化																												
住民に信頼される良質な医療を提供するため、医療安全対策及び院内感染対策に関する研修を行うなど、診療プロセス全体におけるリスクマネジメントの強化を図る。	(1)対策の充実・強化を図るため、全職員を対象に医療安全対策及び院内感染対策に関する研修を行うとともに、情報の収集及び分析に努める。	医療安全対策の充実・強化を図るため、医療安全研修会を開催した。また、医療安全管理者を中心に、各部署の医療安全推進者と連携しながら、インシデントの事例共有、分析、改善策について検討し、医療安全対策の質の向上に努めた。 【実績】医療安全研修会（日本海総合病院） <table><tr><th>開催日</th><th>研修内容等</th><th>参加人数</th></tr><tr><td>令和元年7月19日</td><td>第1回医療安全全体研修会 モニターとの上手なつきあい方～モニターの基本的な知識を学ぶ ME室 主任臨床工学技士 本間 功一 臨床工学技士 渡邊 大和</td><td>140名</td></tr><tr><td>令和元年9月4日</td><td>第2回医療安全全体研修会 医原性末梢神経損傷～対策と対応～ 日本海総合病院 整形外科部長 佐藤 大祐</td><td>186名</td></tr><tr><td>令和元年11月18日</td><td>第3回医療安全全体研修会 診療録・看護記録の重要性～裁判事例からの学び～ SOMPOリスクマネジメント株式会社 医療介護コンサルティング部 上級コンサルタント 山崎 望司 先生</td><td>260名</td></tr></table> 院内感染対策の充実・強化を図るため、院内感染対策委員会を中心に以下のような研修会を開催した。また、ICTを中心として、感染対策地域合同カンファレンスを年4回開催し、他の医療機関や保健所と感染症発生状況や対策について情報収集を行った。 【実績】院内感染対策研修会（日本海総合病院） <table><tr><th>開催日</th><th>研修内容等</th><th>参加人数</th></tr><tr><td>令和元年8月23日</td><td>第1回院内感染対策研修会 「抗菌薬をどう使うか？使わないか？ ～ガイドラインを参考に考える～」 講師：東北文化学園大学 特任教授 渡辺彰 氏</td><td>259名</td></tr><tr><td>令和2年2月21日</td><td>第2回院内感染対策研修会 「結核について」 講師：山形病院 呼吸器内科医長 寺下 京子 氏</td><td>195名</td></tr></table>	開催日	研修内容等	参加人数	令和元年7月19日	第1回医療安全全体研修会 モニターとの上手なつきあい方～モニターの基本的な知識を学ぶ ME室 主任臨床工学技士 本間 功一 臨床工学技士 渡邊 大和	140名	令和元年9月4日	第2回医療安全全体研修会 医原性末梢神経損傷～対策と対応～ 日本海総合病院 整形外科部長 佐藤 大祐	186名	令和元年11月18日	第3回医療安全全体研修会 診療録・看護記録の重要性～裁判事例からの学び～ SOMPOリスクマネジメント株式会社 医療介護コンサルティング部 上級コンサルタント 山崎 望司 先生	260名	開催日	研修内容等	参加人数	令和元年8月23日	第1回院内感染対策研修会 「抗菌薬をどう使うか？使わないか？ ～ガイドラインを参考に考える～」 講師：東北文化学園大学 特任教授 渡辺彰 氏	259名	令和2年2月21日	第2回院内感染対策研修会 「結核について」 講師：山形病院 呼吸器内科医長 寺下 京子 氏	195名	◇全職員対象の研修の実施と、情報収集等を行ったか。	B	▽医療安全対策の充実・強化を図るため、全職員対象の研修を3回開催し、医療安全対策の一層の向上に努めた。 ▽医療安全管理者を中心に、各部署の医療推進者（リスクマネージャー）を連携しながら、インシデントの事例共有、改善策について検討し、医療安全の質の向上に努めた。 ▽荘内病院と医療安全相互評価を実施し、他の医療機関における医療安全対策の情報収集を図った。 ▽院内感染の防止を図るため、全職員対象の研修会を開催した。	B		
	開催日	研修内容等	参加人数																										
令和元年7月19日	第1回医療安全全体研修会 モニターとの上手なつきあい方～モニターの基本的な知識を学ぶ ME室 主任臨床工学技士 本間 功一 臨床工学技士 渡邊 大和	140名																											
令和元年9月4日	第2回医療安全全体研修会 医原性末梢神経損傷～対策と対応～ 日本海総合病院 整形外科部長 佐藤 大祐	186名																											
令和元年11月18日	第3回医療安全全体研修会 診療録・看護記録の重要性～裁判事例からの学び～ SOMPOリスクマネジメント株式会社 医療介護コンサルティング部 上級コンサルタント 山崎 望司 先生	260名																											
開催日	研修内容等	参加人数																											
令和元年8月23日	第1回院内感染対策研修会 「抗菌薬をどう使うか？使わないか？ ～ガイドラインを参考に考える～」 講師：東北文化学園大学 特任教授 渡辺彰 氏	259名																											
令和2年2月21日	第2回院内感染対策研修会 「結核について」 講師：山形病院 呼吸器内科医長 寺下 京子 氏	195名																											
	(2)医療安全マニュアル及び感染対策マニュアル等は、必要に応じて速やかに改訂し、対策の徹底を図る。	必要に応じて院内感染対策マニュアルの改訂を行い、速やかに院内周知を行った。 また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、新型コロナウイルス感染症に関するマニュアルを作成し、対策の徹底を図った。	◇マニュアル等を、必要に応じて速やかに改訂し、対策の徹底を図ったか。	B	▽医療安全マニュアル及び院内感染対策マニュアルについて改訂を行い、関係部門へ速やかに周知と対策の徹底を図った。 医療安全マニュアル改訂 平成31年4月、令和元年9月、令和元年12月 院内感染対策マニュアル改訂 平成31年4月、令和元年5月、令和元年7月 ▽新型コロナウイルス感染症に関するマニュアルを作成した。	B																							
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するため取るべき措置	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するため取るべき措置																												
1 組織マネジメントの強化	1 組織マネジメントの強化																												
組織マネジメントの強化のため、運営委員会、診療部代表者会議、業務改善委員会、経営会議等の充実を図る。	組織マネジメントの強化のため、運営委員会、診療部代表者会議、業務改善委員会、経営会議等の充実を図る。	運営委員会、診療部代表者会議、経営会議及び業務改善委員会等を定期的に開催し、組織マネジメントに努めた。	◇各委員会、会議の充実を図ったか。	B	▽同左	B																							
2 診療体制の強化、人員配置の弾力的運用	2 診療体制の強化、人員配置の弾力的運用																												
① 医療需要の変化等に迅速かつ的確に対応するため、各病院間での人事交流等による協力体制のもと、業務量に応じて医療従事者の適切な配置を行う。	(1)医療需要の変化等に迅速かつ的確に対応するため、各病院間等での人事交流等による協力体制のもと、業務量に応じて医療従事者の適切な配置を行う。	医療需要の変化等に迅速かつ的確に対応するため、人事異動等、適材適所の配置に努めた。	◇医療従事者の適切な配置を行ったか。	B	▽日本海総合病院の医師による日本海酒田リハビリテーション病院及び日本海八幡クリニックへの応援診療等、連携を図った。	A																							
② 柔軟かつ多様な勤務形態等で、多様な専門的職種の活用を図り、効率的な業務運営に努める。	(2)柔軟かつ多様な勤務形態等で、多様な専門的職種の活用を図り、効率的な業務運営に努める。	TQMセンターを組織化し専門的職種を活用し業務の効率化に努めた。 医師短時間正職員制度を利用することで医師がキャリアを中断することなく安心して意欲的に勤務できるよう努めた。	◇効率的な業務運営に努めたか。	B	▽医療安全部門、感染対策部門、診療記録管理部門などに専門性の高い職員を配置し、効率的な業務運営を図った。 ▽医師短時間職員制度利用者 3名	B																							

第3期中期計画（平成28年度～令和元年度）			令和元年度計画			令和元年度実績【実施状況及び業務運営の状況】			評価の視点	自己 評定	評定の理由等		H30 評定	評定	設立団体の評価																																																																																																																																																																																																																																																	
3 経営基盤の安定化			3 経営基盤の安定化																																																																																																																																																																																																																																																													
（1）収入の確保			（1）収入の確保																																																																																																																																																																																																																																																													
① 1日あたりの患者数及び病床利用率等の目標値を次のように定めるとともに、医療を取り巻く環境の変化や患者動向にあわせ、適切な取組みを行い営業収益の確保に努める。 【目標値】1日あたり患者数 <table><tr><td></td><td>入院</td><td>外来</td></tr><tr><td>日本海総合病院</td><td>516人/日以上</td><td>1,300人/日以上</td></tr><tr><td>日本海酒田リハビリ病院</td><td>102人/日以上</td><td>3人/日以上</td></tr><tr><td>日本海八幡クリニック診療所</td><td>—</td><td>80人/日以上</td></tr></table> 【目標値】病床利用率、平均在院日数 <table><tr><td></td><td>病床利用率</td><td>平均在院日数</td></tr><tr><td>日本海総合病院</td><td>80%以上</td><td>12.0日以内</td></tr><tr><td>日本海酒田リハビリ病院</td><td>90%以上</td><td>—</td></tr><tr><td>日本海八幡クリニック診療所</td><td>—</td><td>—</td></tr></table> 【目標値】診療単価 <table><tr><td></td><td>入院</td><td>外来</td></tr><tr><td>日本海総合病院</td><td>62,000円/日以上</td><td>13,000円/日以上</td></tr><tr><td>日本海酒田リハビリ病院</td><td>26,000円/日以上</td><td>3,000円/日以上</td></tr><tr><td>日本海八幡クリニック診療所</td><td>—</td><td>8,000円/日以上</td></tr></table>				入院	外来	日本海総合病院	516人/日以上	1,300人/日以上	日本海酒田リハビリ病院	102人/日以上	3人/日以上	日本海八幡クリニック診療所	—	80人/日以上		病床利用率	平均在院日数	日本海総合病院	80%以上	12.0日以内	日本海酒田リハビリ病院	90%以上	—	日本海八幡クリニック診療所	—	—		入院	外来	日本海総合病院	62,000円/日以上	13,000円/日以上	日本海酒田リハビリ病院	26,000円/日以上	3,000円/日以上	日本海八幡クリニック診療所	—	8,000円/日以上	ア 1日あたりの患者数、病床利用率等の目標値を次のように定め、営業収益の確保に努める。 【目標値】1日あたり患者数 <table><tr><td></td><td>入院</td><td>外来</td></tr><tr><td>日本海総合病院</td><td>516人/日以上</td><td>1,300人/日以上</td></tr><tr><td>日本海酒田リハビリ病院</td><td>102人/日以上</td><td>3人/日以上</td></tr><tr><td>日本海八幡クリニック診療所</td><td>—</td><td>80人/日以上</td></tr></table> 【目標値】病床利用率、平均在院日数 <table><tr><td></td><td>病床利用率</td><td>平均在院日数</td></tr><tr><td>日本海総合病院</td><td>80%以上</td><td>12.0日以内</td></tr><tr><td>日本海酒田リハビリ病院</td><td>90%以上</td><td>—</td></tr><tr><td>日本海八幡クリニック診療所</td><td>—</td><td>—</td></tr></table> 【目標値】診療単価 <table><tr><td></td><td>入院</td><td>外来</td></tr><tr><td>日本海総合病院</td><td>62,000円/日以上</td><td>13,000円/日以上</td></tr><tr><td>日本海酒田リハビリ病院</td><td>26,000円/日以上</td><td>3,000円/日以上</td></tr><tr><td>日本海八幡クリニック診療所</td><td>—</td><td>8,000円/日以上</td></tr></table>				入院	外来	日本海総合病院	516人/日以上	1,300人/日以上	日本海酒田リハビリ病院	102人/日以上	3人/日以上	日本海八幡クリニック診療所	—	80人/日以上		病床利用率	平均在院日数	日本海総合病院	80%以上	12.0日以内	日本海酒田リハビリ病院	90%以上	—	日本海八幡クリニック診療所	—	—		入院	外来	日本海総合病院	62,000円/日以上	13,000円/日以上	日本海酒田リハビリ病院	26,000円/日以上	3,000円/日以上	日本海八幡クリニック診療所	—	8,000円/日以上	1日あたりの患者数、病床利用率等は次のとおりであった。 【患者動向】 日本海総合病院 <table><tr><td>区 分</td><td>目標値</td><td>平成28年度</td><td>達成</td><td>平成29年度</td><td>達成</td><td>平成30年度</td><td>達成</td><td>令和元年度</td><td>達成</td></tr><tr><td>入院/1日(人)</td><td>516人以上</td><td>515.7</td><td>×</td><td>515.1</td><td>×</td><td>522.2</td><td>○</td><td>510.9</td><td>×</td></tr><tr><td>病床利用率(%)</td><td>80%以上</td><td>81.9</td><td>○</td><td>81.8</td><td>○</td><td>82.9</td><td>○</td><td>81.1</td><td>○</td></tr><tr><td>平均在院日数(日)</td><td>12日以内</td><td>11.7</td><td>○</td><td>11.2</td><td>○</td><td>11.4</td><td>○</td><td>11.5</td><td>○</td></tr><tr><td>外来/1日(人)</td><td>1,300人以上</td><td>1,380.4</td><td>○</td><td>1,417.2</td><td>○</td><td>1,410.2</td><td>○</td><td>1,420.6</td><td>○</td></tr></table> 日本海酒田リハビリテーション病院 <table><tr><td>区 分</td><td>目標値</td><td>平成28年度</td><td>達成</td><td>平成29年度</td><td>達成</td><td>平成30年度</td><td>達成</td><td>令和元年度</td><td>達成</td></tr><tr><td>入院/1日(人)</td><td>102人以上</td><td>102.5</td><td>○</td><td>101.3</td><td>×</td><td>101.2</td><td>×</td><td>94.8</td><td>×</td></tr><tr><td>病床利用率(%)</td><td>90%以上</td><td>89.9</td><td>×</td><td>88.8</td><td>×</td><td>88.8</td><td>×</td><td>83.2</td><td>×</td></tr><tr><td>外来/1日(人)</td><td>3人以上</td><td>3.4</td><td>○</td><td>3</td><td>○</td><td>1.5</td><td>×</td><td>1</td><td>×</td></tr></table> 日本海八幡クリニック等診療所 <table><tr><td>区 分</td><td>目標値</td><td>平成30年度</td><td>達成</td><td>令和元年度</td><td>達成</td></tr><tr><td>外来/1日(人)</td><td>80人以上</td><td>79.7</td><td>×</td><td>81.7</td><td>○</td></tr></table> 【患者1人1日当たりの診療単価（税抜）単位：円】 日本海総合病院 <table><tr><td>区分(目標値)</td><td>平成28年度</td><td>達成</td><td>平成29年度</td><td>達成</td><td>平成30年度</td><td>達成</td><td>令和元年度</td><td>達成</td></tr><tr><td>入院(62,000円以上)</td><td>63,328</td><td>○</td><td>68,113</td><td>○</td><td>68,587</td><td>○</td><td>70,955</td><td>○</td></tr><tr><td>外来(13,000円以上)</td><td>14,504</td><td>○</td><td>15,276</td><td>○</td><td>15,869</td><td>○</td><td>16,904</td><td>○</td></tr></table> 日本海酒田リハビリテーション病院 <table><tr><td>区分(目標値)</td><td>平成28年度</td><td>達成</td><td>平成29年度</td><td>達成</td><td>平成30年度</td><td>達成</td><td>令和元年度</td><td>達成</td></tr><tr><td>入院(26,000円以上)</td><td>26,933</td><td>○</td><td>27,887</td><td>○</td><td>29,212</td><td>○</td><td>29,514</td><td>○</td></tr><tr><td>外来(3,000円以上)</td><td>3,774</td><td>○</td><td>3,682</td><td>○</td><td>6,363</td><td>○</td><td>7,662</td><td>○</td></tr></table> 日本海八幡クリニック等診療所 <table><tr><td>区分(目標値)</td><td>平成30年度</td><td>達成</td><td>令和元年度</td><td>達成</td></tr><tr><td>外来(8,000円以上)</td><td>7,591</td><td>×</td><td>7,431</td><td>×</td></tr></table>			区 分	目標値	平成28年度	達成	平成29年度	達成	平成30年度	達成	令和元年度	達成	入院/1日(人)	516人以上	515.7	×	515.1	×	522.2	○	510.9	×	病床利用率(%)	80%以上	81.9	○	81.8	○	82.9	○	81.1	○	平均在院日数(日)	12日以内	11.7	○	11.2	○	11.4	○	11.5	○	外来/1日(人)	1,300人以上	1,380.4	○	1,417.2	○	1,410.2	○	1,420.6	○	区 分	目標値	平成28年度	達成	平成29年度	達成	平成30年度	達成	令和元年度	達成	入院/1日(人)	102人以上	102.5	○	101.3	×	101.2	×	94.8	×	病床利用率(%)	90%以上	89.9	×	88.8	×	88.8	×	83.2	×	外来/1日(人)	3人以上	3.4	○	3	○	1.5	×	1	×	区 分	目標値	平成30年度	達成	令和元年度	達成	外来/1日(人)	80人以上	79.7	×	81.7	○	区分(目標値)	平成28年度	達成	平成29年度	達成	平成30年度	達成	令和元年度	達成	入院(62,000円以上)	63,328	○	68,113	○	68,587	○	70,955	○	外来(13,000円以上)	14,504	○	15,276	○	15,869	○	16,904	○	区分(目標値)	平成28年度	達成	平成29年度	達成	平成30年度	達成	令和元年度	達成	入院(26,000円以上)	26,933	○	27,887	○	29,212	○	29,514	○	外来(3,000円以上)	3,774	○	3,682	○	6,363	○	7,662	○	区分(目標値)	平成30年度	達成	令和元年度	達成	外来(8,000円以上)	7,591	×	7,431	×	◇各目標値を達成できたか。			B	▽日本海総合病院では、1日あたりの入院患者数が目標値を下回ったが、他の目標値に関しては、すべて達成した。		B			
	入院	外来																																																																																																																																																																																																																																																														
日本海総合病院	516人/日以上	1,300人/日以上																																																																																																																																																																																																																																																														
日本海酒田リハビリ病院	102人/日以上	3人/日以上																																																																																																																																																																																																																																																														
日本海八幡クリニック診療所	—	80人/日以上																																																																																																																																																																																																																																																														
	病床利用率	平均在院日数																																																																																																																																																																																																																																																														
日本海総合病院	80%以上	12.0日以内																																																																																																																																																																																																																																																														
日本海酒田リハビリ病院	90%以上	—																																																																																																																																																																																																																																																														
日本海八幡クリニック診療所	—	—																																																																																																																																																																																																																																																														
	入院	外来																																																																																																																																																																																																																																																														
日本海総合病院	62,000円/日以上	13,000円/日以上																																																																																																																																																																																																																																																														
日本海酒田リハビリ病院	26,000円/日以上	3,000円/日以上																																																																																																																																																																																																																																																														
日本海八幡クリニック診療所	—	8,000円/日以上																																																																																																																																																																																																																																																														
	入院	外来																																																																																																																																																																																																																																																														
日本海総合病院	516人/日以上	1,300人/日以上																																																																																																																																																																																																																																																														
日本海酒田リハビリ病院	102人/日以上	3人/日以上																																																																																																																																																																																																																																																														
日本海八幡クリニック診療所	—	80人/日以上																																																																																																																																																																																																																																																														
	病床利用率	平均在院日数																																																																																																																																																																																																																																																														
日本海総合病院	80%以上	12.0日以内																																																																																																																																																																																																																																																														
日本海酒田リハビリ病院	90%以上	—																																																																																																																																																																																																																																																														
日本海八幡クリニック診療所	—	—																																																																																																																																																																																																																																																														
	入院	外来																																																																																																																																																																																																																																																														
日本海総合病院	62,000円/日以上	13,000円/日以上																																																																																																																																																																																																																																																														
日本海酒田リハビリ病院	26,000円/日以上	3,000円/日以上																																																																																																																																																																																																																																																														
日本海八幡クリニック診療所	—	8,000円/日以上																																																																																																																																																																																																																																																														
区 分	目標値	平成28年度	達成	平成29年度	達成	平成30年度	達成	令和元年度	達成																																																																																																																																																																																																																																																							
入院/1日(人)	516人以上	515.7	×	515.1	×	522.2	○	510.9	×																																																																																																																																																																																																																																																							
病床利用率(%)	80%以上	81.9	○	81.8	○	82.9	○	81.1	○																																																																																																																																																																																																																																																							
平均在院日数(日)	12日以内	11.7	○	11.2	○	11.4	○	11.5	○																																																																																																																																																																																																																																																							
外来/1日(人)	1,300人以上	1,380.4	○	1,417.2	○	1,410.2	○	1,420.6	○																																																																																																																																																																																																																																																							
区 分	目標値	平成28年度	達成	平成29年度	達成	平成30年度	達成	令和元年度	達成																																																																																																																																																																																																																																																							
入院/1日(人)	102人以上	102.5	○	101.3	×	101.2	×	94.8	×																																																																																																																																																																																																																																																							
病床利用率(%)	90%以上	89.9	×	88.8	×	88.8	×	83.2	×																																																																																																																																																																																																																																																							
外来/1日(人)	3人以上	3.4	○	3	○	1.5	×	1	×																																																																																																																																																																																																																																																							
区 分	目標値	平成30年度	達成	令和元年度	達成																																																																																																																																																																																																																																																											
外来/1日(人)	80人以上	79.7	×	81.7	○																																																																																																																																																																																																																																																											
区分(目標値)	平成28年度	達成	平成29年度	達成	平成30年度	達成	令和元年度	達成																																																																																																																																																																																																																																																								
入院(62,000円以上)	63,328	○	68,113	○	68,587	○	70,955	○																																																																																																																																																																																																																																																								
外来(13,000円以上)	14,504	○	15,276	○	15,869	○	16,904	○																																																																																																																																																																																																																																																								
区分(目標値)	平成28年度	達成	平成29年度	達成	平成30年度	達成	令和元年度	達成																																																																																																																																																																																																																																																								
入院(26,000円以上)	26,933	○	27,887	○	29,212	○	29,514	○																																																																																																																																																																																																																																																								
外来(3,000円以上)	3,774	○	3,682	○	6,363	○	7,662	○																																																																																																																																																																																																																																																								
区分(目標値)	平成30年度	達成	令和元年度	達成																																																																																																																																																																																																																																																												
外来(8,000円以上)	7,591	×	7,431	×																																																																																																																																																																																																																																																												
② 診療報酬請求のチェック体制を強化し、請求漏れや査定による減点等の防止を図る。			イ 診療報酬請求のチェック体制を強化し、請求漏れや査定による減点等の防止を図る。			診療報酬点検委員会等において診療報酬請求の請求漏れや査定による減点の防止等に努めている。			◇請求漏れや査定による減点等の防止を図ったか。	B	▽同左		B																																																																																																																																																																																																																																																			
③ 診療報酬改定等をはじめ各種制度の変化に迅速に対応し、施設基準の取得等により増収を図る。			ウ 診療報酬改定等をはじめ各種制度の変化に迅速に対応し、施設基準の取得等により増収を図る。			診療報酬改定等を踏まえ、施設基準の新たな取得等により増収を図った。			◇施設基準の取得等により増収を図ったか。	B	▽新たに取得した施設基準 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）等		A																																																																																																																																																																																																																																																			
④ 各種公的制度の活用等により未収金の発生を防止するとともに、未収金が発生した場合は多様な方法により早期回収に努める。			エ 各種公的制度の活用等により未収金の発生を防止するとともに、未収金が発生した場合は多様な方法により早期回収に努める。			患者の支払いに関する情報をもとに、ソーシャルワーカーの介入等により各種公的制度の活用を図っている。未収金が発生した際は、督促・催告状の発行に加え、分割納入や集金での対応や弁護士法人への委託による回収に努めた。			◇未収金が発生した場合早期回収に努めたか。	B	▽弁護士法人に委託した金額のうち23.7%を回収した。		A																																																																																																																																																																																																																																																			
▽退院時会計により、即日発行された会計書のうち58.9%が当日中に回収された。																																																																																																																																																																																																																																																																
（2）費用の抑制			（2）費用の抑制																																																																																																																																																																																																																																																													
医療を取り巻く環境の変化や患者動向に対応し、職員給与と費比率、材料費比率等の目標値を次のように定めるとともに、適切な取組みを行い費用の抑制に努める。 また、後発医薬品の数量シェアについては、国の設定した目標値の達成に努める。 なお、日本海八幡クリニック等診療所については、患者動向等を見ながら効率的な運営を図り費用の抑制に努める。 【営業収益に占める主な費用の比率の目標値】 <table><tr><td></td><td>職員給与と費</td><td>材料費</td><td>うち薬品費</td></tr><tr><td>日本海総合病院 （法人管理部を含む。）</td><td colspan="3">総務省が公表している「地方公営企業決算状況調査」（前々年度）における全国500床以上の黒字公立病院の平均値</td></tr><tr><td>日本海酒田リハビリテーション病院</td><td>70%以内</td><td>4%以内</td><td>3%以内</td></tr></table>				職員給与と費	材料費	うち薬品費	日本海総合病院 （法人管理部を含む。）	総務省が公表している「地方公営企業決算状況調査」（前々年度）における全国500床以上の黒字公立病院の平均値			日本海酒田リハビリテーション病院	70%以内	4%以内	3%以内	職員給与と費比率、材料費比率等の目標値を次のように定め、費用の抑制に努める。 また、後発医薬品の数量シェアについては、国の設定した目標値の達成に努める。 なお、日本海八幡クリニック等診療所については、患者動向等を見ながら効率的な運営を図り費用の抑制に努める。 【目標値】 <table><tr><td></td><td>日本海総合病院</td><td>日本海酒田リハ病院</td></tr><tr><td>職員給与と費率</td><td>46.4%以内</td><td>70%以内</td></tr><tr><td>材料比率</td><td>28.0%以内</td><td>4%以内</td></tr><tr><td>うち薬品費</td><td>14.6%以内</td><td>3%以内</td></tr></table>				日本海総合病院	日本海酒田リハ病院	職員給与と費率	46.4%以内	70%以内	材料比率	28.0%以内	4%以内	うち薬品費	14.6%以内	3%以内	職員給与と費比率、材料費比率等の目標値を次のように定め、費用の抑制に努めている。 また、後発医薬品の数量シェアについては、国による目標値（80%）の達成に努めた。 【実績】費用に係る比率 日本海総合病院 <table><tr><td>区 分</td><td>平成28年度</td><td>平成29年度</td><td>平成30年度</td><td>令和元年度</td></tr><tr><td>目標値</td><td>実績</td><td>目標値</td><td>実績</td><td>目標値</td><td>実績</td></tr><tr><td>職員給与と費率</td><td>47.2%以内</td><td>45.7% ○</td><td>46.6%以内</td><td>43.8% ○</td><td>46.1%以内</td><td>44.2% ○</td></tr><tr><td>材料費比率</td><td>26.3%以内</td><td>25.8% ○</td><td>27.7%以内</td><td>26.9% ○</td><td>28.5%以内</td><td>27.4% ○</td></tr><tr><td>薬品費比率</td><td>13.2%以内</td><td>13.8% ×</td><td>14.9%以内</td><td>14.3% ○</td><td>15.4%以内</td><td>14.9% ○</td></tr></table> 日本海酒田リハビリテーション病院 <table><tr><td>区 分</td><td>目標値</td><td>平成28年度</td><td>達成</td><td>平成29年度</td><td>達成</td><td>平成30年度</td><td>達成</td><td>令和元年度</td><td>達成</td></tr><tr><td>職員給与と費率</td><td>70%以内</td><td>70.7%</td><td>×</td><td>73.6%</td><td>×</td><td>72.2%</td><td>×</td><td>73.7%</td><td>×</td></tr><tr><td>材料費比率</td><td>4%以内</td><td>2.4%</td><td>○</td><td>2.1%</td><td>○</td><td>2.1%</td><td>○</td><td>2.0%</td><td>○</td></tr><tr><td>薬品費比率</td><td>3%以内</td><td>1.5%</td><td>○</td><td>1.4%</td><td>○</td><td>1.4%</td><td>○</td><td>1.1%</td><td>○</td></tr></table> 【後発医薬品の数量シェア率】 <table><tr><td>区分</td><td>シェア率</td></tr><tr><td>日本海総合病院</td><td>90.3%</td></tr><tr><td>日本海酒田リハ病院</td><td>92.6%</td></tr></table> ※国による目標値：平成30年度から令和2年度末までの間のなるべく早い時期に80%以上			区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	職員給与と費率	47.2%以内	45.7% ○	46.6%以内	43.8% ○	46.1%以内	44.2% ○	材料費比率	26.3%以内	25.8% ○	27.7%以内	26.9% ○	28.5%以内	27.4% ○	薬品費比率	13.2%以内	13.8% ×	14.9%以内	14.3% ○	15.4%以内	14.9% ○	区 分	目標値	平成28年度	達成	平成29年度	達成	平成30年度	達成	令和元年度	達成	職員給与と費率	70%以内	70.7%	×	73.6%	×	72.2%	×	73.7%	×	材料費比率	4%以内	2.4%	○	2.1%	○	2.1%	○	2.0%	○	薬品費比率	3%以内	1.5%	○	1.4%	○	1.4%	○	1.1%	○	区分	シェア率	日本海総合病院	90.3%	日本海酒田リハ病院	92.6%	◇費用の抑制に努め、また、後発医薬品の数量シェアを国の設定した目標値の達成に努めたか。			B	▽日本海総合病院の職員給与と費率と日本海酒田リハビリテーション病院の材料費比率及び薬品費比率において目標を達成した。		B																																																																																																																																											
	職員給与と費	材料費	うち薬品費																																																																																																																																																																																																																																																													
日本海総合病院 （法人管理部を含む。）	総務省が公表している「地方公営企業決算状況調査」（前々年度）における全国500床以上の黒字公立病院の平均値																																																																																																																																																																																																																																																															
日本海酒田リハビリテーション病院	70%以内	4%以内	3%以内																																																																																																																																																																																																																																																													
	日本海総合病院	日本海酒田リハ病院																																																																																																																																																																																																																																																														
職員給与と費率	46.4%以内	70%以内																																																																																																																																																																																																																																																														
材料比率	28.0%以内	4%以内																																																																																																																																																																																																																																																														
うち薬品費	14.6%以内	3%以内																																																																																																																																																																																																																																																														
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																																																																																																																																																																																																																												
目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績																																																																																																																																																																																																																																																											
職員給与と費率	47.2%以内	45.7% ○	46.6%以内	43.8% ○	46.1%以内	44.2% ○																																																																																																																																																																																																																																																										
材料費比率	26.3%以内	25.8% ○	27.7%以内	26.9% ○	28.5%以内	27.4% ○																																																																																																																																																																																																																																																										
薬品費比率	13.2%以内	13.8% ×	14.9%以内	14.3% ○	15.4%以内	14.9% ○																																																																																																																																																																																																																																																										
区 分	目標値	平成28年度	達成	平成29年度	達成	平成30年度	達成	令和元年度	達成																																																																																																																																																																																																																																																							
職員給与と費率	70%以内	70.7%	×	73.6%	×	72.2%	×	73.7%	×																																																																																																																																																																																																																																																							
材料費比率	4%以内	2.4%	○	2.1%	○	2.1%	○	2.0%	○																																																																																																																																																																																																																																																							
薬品費比率	3%以内	1.5%	○	1.4%	○	1.4%	○	1.1%	○																																																																																																																																																																																																																																																							
区分	シェア率																																																																																																																																																																																																																																																															
日本海総合病院	90.3%																																																																																																																																																																																																																																																															
日本海酒田リハ病院	92.6%																																																																																																																																																																																																																																																															
▽後発医薬品の数量シェア率については、日本海総合病院及び日本海酒田リハビリテーション病院ともに目標値を上回った。																																																																																																																																																																																																																																																																

第3期中期計画（平成28年度～令和元年度）	令和元年度計画	令和元年度実績【実施状況及び業務運営の状況】	評価の視点	自己 評定	評定の理由等	H30 評定	評定	設立団体の評価																																																																																																															
第4 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画																																																																																																																						
なお一層の効率的、効果的で持続可能な経営に努めるため、営業収支比率及び経常収支比率の目標値を定め、中期目標を着実に達成するための予算、収支計画及び資金計画を次のように見込む	営業収支比率及び経常収支比率の目標値を定め、予算、収支計画及び資金計画を次のように見込む。	収支は次のとおりであった。		B	▽病院及び診療所において、営業収支比率、経常収支比率の目標を達成した。 法人全体 総収益227億18百万円 総費用222億79百万円 当期純利益は4億39百万円だった。	A																																																																																																																	
【営業収支比率及び経常収支比率の目標値】	【営業収支比率及び経常収支比率の目標値】	【実績】営業収支比率及び経常収支比率																																																																																																																					
<table><tr><th></th><th>営業収支比率</th><th>経常収支比率</th></tr><tr><td>日本海総合病院 (法人管理部を含む。)</td><td>100%以上</td><td>100%以上</td></tr><tr><td>日本海酒田リハビリテーション病院</td><td>80%以上</td><td>80%以上</td></tr><tr><td>日本海八幡クリニック等診療所</td><td>55%以上</td><td>100%以上</td></tr><tr><td>病院機構全体</td><td>100%以上</td><td>100%以上</td></tr></table>		営業収支比率	経常収支比率	日本海総合病院 (法人管理部を含む。)	100%以上	100%以上	日本海酒田リハビリテーション病院	80%以上	80%以上	日本海八幡クリニック等診療所	55%以上	100%以上	病院機構全体	100%以上	100%以上	<table><tr><th></th><th>営業収支比率</th><th>経常収支比率</th></tr><tr><td>日本海総合病院</td><td>100%以上</td><td>100%以上</td></tr><tr><td>日本海酒田リハビリ病院</td><td>80%以上</td><td>80%以上</td></tr><tr><td>日本海八幡クリニック診療所</td><td>55%以上</td><td>100%以上</td></tr><tr><td>病院機構全体</td><td>100%以上</td><td>100%以上</td></tr></table>		営業収支比率	経常収支比率	日本海総合病院	100%以上	100%以上	日本海酒田リハビリ病院	80%以上	80%以上	日本海八幡クリニック診療所	55%以上	100%以上	病院機構全体	100%以上	100%以上	<table><tr><th colspan="4">【実績】営業収支比率及び経常収支比率</th></tr><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="2">営業収支比率</th><th colspan="2">経常収支比率</th></tr><tr><th>目標値</th><th>実績</th><th>目標値</th><th>実績</th></tr><tr><td>日本海総合病院</td><td>100%以上</td><td>103.7%</td><td>100%以上</td><td>102.8%</td></tr><tr><td>日本海酒田リハビリテーション病院</td><td>80%以上</td><td>84.9%</td><td>80%以上</td><td>90.0%</td></tr><tr><td>日本海八幡クリニック等診療所</td><td>55%以上</td><td>78.2%</td><td>100%以上</td><td>118.7%</td></tr><tr><td>病院機構全体</td><td>100%以上</td><td>102.2%</td><td>100%以上</td><td>102.2%</td></tr></table>	【実績】営業収支比率及び経常収支比率				区 分	営業収支比率		経常収支比率		目標値	実績	目標値	実績	日本海総合病院	100%以上	103.7%	100%以上	102.8%	日本海酒田リハビリテーション病院	80%以上	84.9%	80%以上	90.0%	日本海八幡クリニック等診療所	55%以上	78.2%	100%以上	118.7%	病院機構全体	100%以上	102.2%	100%以上	102.2%																																																						
	営業収支比率	経常収支比率																																																																																																																					
日本海総合病院 (法人管理部を含む。)	100%以上	100%以上																																																																																																																					
日本海酒田リハビリテーション病院	80%以上	80%以上																																																																																																																					
日本海八幡クリニック等診療所	55%以上	100%以上																																																																																																																					
病院機構全体	100%以上	100%以上																																																																																																																					
	営業収支比率	経常収支比率																																																																																																																					
日本海総合病院	100%以上	100%以上																																																																																																																					
日本海酒田リハビリ病院	80%以上	80%以上																																																																																																																					
日本海八幡クリニック診療所	55%以上	100%以上																																																																																																																					
病院機構全体	100%以上	100%以上																																																																																																																					
【実績】営業収支比率及び経常収支比率																																																																																																																							
区 分	営業収支比率		経常収支比率																																																																																																																				
	目標値	実績	目標値	実績																																																																																																																			
日本海総合病院	100%以上	103.7%	100%以上	102.8%																																																																																																																			
日本海酒田リハビリテーション病院	80%以上	84.9%	80%以上	90.0%																																																																																																																			
日本海八幡クリニック等診療所	55%以上	78.2%	100%以上	118.7%																																																																																																																			
病院機構全体	100%以上	102.2%	100%以上	102.2%																																																																																																																			
1 予算 2 収支計画 3 資金計画 日本海総合病院(平成28～31年度) 日本海酒田リハビリテーション病院(平成28～31年度) 日本海八幡クリニック等診療所(平成30～31年度) ※表省略	1 予算 2 収支計画 3 資金計画 日本海総合病院 日本海酒田リハビリテーション病院 日本海八幡クリニック等診療所 ※表省略	予算及び決算 (単位:百万円) <table><tr><th>区分</th><th>予算額 (当 初)</th><th>決算額</th><th>差額 (決算－予算)</th></tr><tr><td>収 入</td><td>24,171</td><td>24,931</td><td>760</td></tr><tr><td>営業収益</td><td>20,761</td><td>21,529</td><td>768</td></tr><tr><td>医業収入</td><td>20,151</td><td>20,913</td><td>762</td></tr><tr><td>運営費負担金</td><td>610</td><td>616</td><td>6</td></tr><tr><td>営業外収益</td><td>1,202</td><td>1,207</td><td>5</td></tr><tr><td>運営費負担金等</td><td>937</td><td>970</td><td>33</td></tr><tr><td>その他</td><td>265</td><td>237</td><td>△28</td></tr><tr><td>資本収入</td><td>2,199</td><td>2,185</td><td>△14</td></tr><tr><td>金銭出資の受入</td><td>827</td><td>827</td><td>0</td></tr><tr><td>長期借入金</td><td>1,360</td><td>1,346</td><td>△14</td></tr><tr><td>その他</td><td>12</td><td>12</td><td>0</td></tr><tr><td>その他の収入</td><td>9</td><td>10</td><td>1</td></tr></table> (単位:百万円) <table><tr><th>区分</th><th>予算額 (当 初)</th><th>決算額</th><th>差額 (決算－予算)</th></tr><tr><td>支 出</td><td>23,912</td><td>23,989</td><td>77</td></tr><tr><td>営業費用</td><td>19,918</td><td>20,097</td><td>179</td></tr><tr><td>医業費用</td><td>19,714</td><td>19,906</td><td>192</td></tr><tr><td>給与費</td><td>10,000</td><td>9,966</td><td>△34</td></tr><tr><td>材料費</td><td>6,049</td><td>6,513</td><td>464</td></tr><tr><td>経費</td><td>3,532</td><td>3,332</td><td>△200</td></tr><tr><td>研究研修費</td><td>133</td><td>94</td><td>△39</td></tr><tr><td>一般管理費</td><td>204</td><td>191</td><td>△13</td></tr><tr><td>営業外費用</td><td>225</td><td>222</td><td>△3</td></tr><tr><td>資本支出</td><td>3,769</td><td>3,669</td><td>△100</td></tr><tr><td>建設改良費</td><td>2,314</td><td>2,214</td><td>△100</td></tr><tr><td>長期借入金返還金</td><td>1,444</td><td>1,444</td><td>0</td></tr><tr><td>修学資金貸付</td><td>10</td><td>10</td><td>0</td></tr><tr><td>その他の費用</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td></tr></table> ※項目毎に端数処理をしているため、合計額が一致しない項目がま	区分	予算額 (当 初)	決算額	差額 (決算－予算)	収 入	24,171	24,931	760	営業収益	20,761	21,529	768	医業収入	20,151	20,913	762	運営費負担金	610	616	6	営業外収益	1,202	1,207	5	運営費負担金等	937	970	33	その他	265	237	△28	資本収入	2,199	2,185	△14	金銭出資の受入	827	827	0	長期借入金	1,360	1,346	△14	その他	12	12	0	その他の収入	9	10	1	区分	予算額 (当 初)	決算額	差額 (決算－予算)	支 出	23,912	23,989	77	営業費用	19,918	20,097	179	医業費用	19,714	19,906	192	給与費	10,000	9,966	△34	材料費	6,049	6,513	464	経費	3,532	3,332	△200	研究研修費	133	94	△39	一般管理費	204	191	△13	営業外費用	225	222	△3	資本支出	3,769	3,669	△100	建設改良費	2,314	2,214	△100	長期借入金返還金	1,444	1,444	0	修学資金貸付	10	10	0	その他の費用	1	1	0					
区分	予算額 (当 初)	決算額	差額 (決算－予算)																																																																																																																				
収 入	24,171	24,931	760																																																																																																																				
営業収益	20,761	21,529	768																																																																																																																				
医業収入	20,151	20,913	762																																																																																																																				
運営費負担金	610	616	6																																																																																																																				
営業外収益	1,202	1,207	5																																																																																																																				
運営費負担金等	937	970	33																																																																																																																				
その他	265	237	△28																																																																																																																				
資本収入	2,199	2,185	△14																																																																																																																				
金銭出資の受入	827	827	0																																																																																																																				
長期借入金	1,360	1,346	△14																																																																																																																				
その他	12	12	0																																																																																																																				
その他の収入	9	10	1																																																																																																																				
区分	予算額 (当 初)	決算額	差額 (決算－予算)																																																																																																																				
支 出	23,912	23,989	77																																																																																																																				
営業費用	19,918	20,097	179																																																																																																																				
医業費用	19,714	19,906	192																																																																																																																				
給与費	10,000	9,966	△34																																																																																																																				
材料費	6,049	6,513	464																																																																																																																				
経費	3,532	3,332	△200																																																																																																																				
研究研修費	133	94	△39																																																																																																																				
一般管理費	204	191	△13																																																																																																																				
営業外費用	225	222	△3																																																																																																																				
資本支出	3,769	3,669	△100																																																																																																																				
建設改良費	2,314	2,214	△100																																																																																																																				
長期借入金返還金	1,444	1,444	0																																																																																																																				
修学資金貸付	10	10	0																																																																																																																				
その他の費用	1	1	0																																																																																																																				

第3期中期計画（平成28年度～令和元年度）	令和元年度計画	令和元年度実績【実施状況及び業務運営の状況】	評価の視点	自己 評定	評定の理由等	H30 評定	評定	設立団体の評価																																																																																																																																																																																															
		収支計画 (単位:百万円) <table><tr><th>区 分</th><th>予算額 (当 初)</th><th>決算額</th><th>差額 (決算 - 予算)</th></tr><tr><td>収 入</td><td>21,948</td><td>22,718</td><td>770</td></tr><tr><td> 営業収益</td><td>20,748</td><td>21,504</td><td>756</td></tr><tr><td> 医業収益</td><td>20,115</td><td>20,878</td><td>763</td></tr><tr><td> 運営費負担金収益</td><td>610</td><td>616</td><td>6</td></tr><tr><td> 資産見返補助金等戻入</td><td>23</td><td>9</td><td>△14</td></tr><tr><td> 営業外収益</td><td>1,191</td><td>1,196</td><td>5</td></tr><tr><td> 運営費負担金収益</td><td>937</td><td>970</td><td>33</td></tr><tr><td> その他医業外収益</td><td>254</td><td>226</td><td>△28</td></tr><tr><td> その他の収入</td><td>9</td><td>18</td><td>9</td></tr><tr><td>支 出</td><td>21,909</td><td>22,279</td><td>370</td></tr><tr><td> 営業費用</td><td>20,697</td><td>21,038</td><td>341</td></tr><tr><td> 医業費用</td><td>20,509</td><td>20,861</td><td>352</td></tr><tr><td> 一般管理費</td><td>188</td><td>177</td><td>△11</td></tr><tr><td> 営業外費用</td><td>1,170</td><td>1,172</td><td>2</td></tr><tr><td> その他の費用</td><td>42</td><td>69</td><td>27</td></tr><tr><td>純 利 益</td><td>39</td><td>439</td><td>400</td></tr></table> 資金計画 (単位:百万円) <table><tr><th>区 分</th><th>予算額 (当 初)</th><th>決算額</th><th>差額 (決算 - 予算)</th></tr><tr><td>資金収入</td><td>42,037</td><td>36,677</td><td>△5,360</td></tr><tr><td> 業務活動による収入</td><td>21,980</td><td>22,598</td><td>618</td></tr><tr><td> 診療業務による収入</td><td>20,151</td><td>20,794</td><td>643</td></tr><tr><td> 運営費負担金による収入</td><td>1,547</td><td>1,586</td><td>39</td></tr><tr><td> 補助金等収入</td><td>107</td><td>66</td><td>△41</td></tr><tr><td> その他の業務活動による収入</td><td>175</td><td>152</td><td>△23</td></tr><tr><td> 投資活動による収入</td><td>11,803</td><td>5,318</td><td>△6,485</td></tr><tr><td> 有価証券の売却による収入</td><td>8,500</td><td>2,500</td><td>△6,000</td></tr><tr><td> 補助金等収入</td><td>0</td><td>15</td><td>15</td></tr><tr><td> 定期預金の払出による収入</td><td>3,300</td><td>2,800</td><td>△500</td></tr><tr><td> その他の投資活動による収入</td><td>3</td><td>3</td><td>0</td></tr><tr><td> 財務活動による収入</td><td>2,187</td><td>2,173</td><td>△14</td></tr><tr><td> 長期借入による収入</td><td>1,360</td><td>1,346</td><td>△14</td></tr><tr><td> 金銭出資の受入による収入</td><td>827</td><td>827</td><td>0</td></tr><tr><td> 前年度からの繰越金</td><td>6,067</td><td>6,588</td><td>521</td></tr><tr><td>資金支出</td><td>35,713</td><td>30,790</td><td>△4,923</td></tr><tr><td> 業務活動による支出</td><td>20,143</td><td>20,494</td><td>351</td></tr><tr><td> 給与費支出</td><td>10,077</td><td>10,134</td><td>57</td></tr><tr><td> 材料費支出</td><td>6,050</td><td>6,419</td><td>369</td></tr><tr><td> その他の業務活動による支出</td><td>4,016</td><td>3,941</td><td>△75</td></tr><tr><td> 投資活動による支出</td><td>14,125</td><td>8,851</td><td>△5,274</td></tr><tr><td> 有形固定資産の取得による支出</td><td>2,314</td><td>2,386</td><td>72</td></tr><tr><td> 無形固定資産の取得による支出</td><td>0</td><td>757</td><td>757</td></tr><tr><td> 有価証券の取得による支出</td><td>10,000</td><td>2,798</td><td>△7,202</td></tr><tr><td> 定期預金の預入による支出</td><td>1,800</td><td>2,900</td><td>1,100</td></tr><tr><td> その他の投資活動による支出</td><td>11</td><td>10</td><td>△1</td></tr><tr><td> 財務活動による支出</td><td>1,445</td><td>1,445</td><td>0</td></tr><tr><td> 長期借入の返済による支出</td><td>817</td><td>817</td><td>0</td></tr><tr><td> 移行前地方債償還債務等の償還による支出</td><td>628</td><td>628</td><td>0</td></tr><tr><td>翌年度への繰越金</td><td>6,324</td><td>5,887</td><td>△437</td></tr></table>	区 分	予算額 (当 初)	決算額	差額 (決算 - 予算)	収 入	21,948	22,718	770	営業収益	20,748	21,504	756	医業収益	20,115	20,878	763	運営費負担金収益	610	616	6	資産見返補助金等戻入	23	9	△14	営業外収益	1,191	1,196	5	運営費負担金収益	937	970	33	その他医業外収益	254	226	△28	その他の収入	9	18	9	支 出	21,909	22,279	370	営業費用	20,697	21,038	341	医業費用	20,509	20,861	352	一般管理費	188	177	△11	営業外費用	1,170	1,172	2	その他の費用	42	69	27	純 利 益	39	439	400	区 分	予算額 (当 初)	決算額	差額 (決算 - 予算)	資金収入	42,037	36,677	△5,360	業務活動による収入	21,980	22,598	618	診療業務による収入	20,151	20,794	643	運営費負担金による収入	1,547	1,586	39	補助金等収入	107	66	△41	その他の業務活動による収入	175	152	△23	投資活動による収入	11,803	5,318	△6,485	有価証券の売却による収入	8,500	2,500	△6,000	補助金等収入	0	15	15	定期預金の払出による収入	3,300	2,800	△500	その他の投資活動による収入	3	3	0	財務活動による収入	2,187	2,173	△14	長期借入による収入	1,360	1,346	△14	金銭出資の受入による収入	827	827	0	前年度からの繰越金	6,067	6,588	521	資金支出	35,713	30,790	△4,923	業務活動による支出	20,143	20,494	351	給与費支出	10,077	10,134	57	材料費支出	6,050	6,419	369	その他の業務活動による支出	4,016	3,941	△75	投資活動による支出	14,125	8,851	△5,274	有形固定資産の取得による支出	2,314	2,386	72	無形固定資産の取得による支出	0	757	757	有価証券の取得による支出	10,000	2,798	△7,202	定期預金の預入による支出	1,800	2,900	1,100	その他の投資活動による支出	11	10	△1	財務活動による支出	1,445	1,445	0	長期借入の返済による支出	817	817	0	移行前地方債償還債務等の償還による支出	628	628	0	翌年度への繰越金	6,324	5,887	△437					
区 分	予算額 (当 初)	決算額	差額 (決算 - 予算)																																																																																																																																																																																																				
収 入	21,948	22,718	770																																																																																																																																																																																																				
営業収益	20,748	21,504	756																																																																																																																																																																																																				
医業収益	20,115	20,878	763																																																																																																																																																																																																				
運営費負担金収益	610	616	6																																																																																																																																																																																																				
資産見返補助金等戻入	23	9	△14																																																																																																																																																																																																				
営業外収益	1,191	1,196	5																																																																																																																																																																																																				
運営費負担金収益	937	970	33																																																																																																																																																																																																				
その他医業外収益	254	226	△28																																																																																																																																																																																																				
その他の収入	9	18	9																																																																																																																																																																																																				
支 出	21,909	22,279	370																																																																																																																																																																																																				
営業費用	20,697	21,038	341																																																																																																																																																																																																				
医業費用	20,509	20,861	352																																																																																																																																																																																																				
一般管理費	188	177	△11																																																																																																																																																																																																				
営業外費用	1,170	1,172	2																																																																																																																																																																																																				
その他の費用	42	69	27																																																																																																																																																																																																				
純 利 益	39	439	400																																																																																																																																																																																																				
区 分	予算額 (当 初)	決算額	差額 (決算 - 予算)																																																																																																																																																																																																				
資金収入	42,037	36,677	△5,360																																																																																																																																																																																																				
業務活動による収入	21,980	22,598	618																																																																																																																																																																																																				
診療業務による収入	20,151	20,794	643																																																																																																																																																																																																				
運営費負担金による収入	1,547	1,586	39																																																																																																																																																																																																				
補助金等収入	107	66	△41																																																																																																																																																																																																				
その他の業務活動による収入	175	152	△23																																																																																																																																																																																																				
投資活動による収入	11,803	5,318	△6,485																																																																																																																																																																																																				
有価証券の売却による収入	8,500	2,500	△6,000																																																																																																																																																																																																				
補助金等収入	0	15	15																																																																																																																																																																																																				
定期預金の払出による収入	3,300	2,800	△500																																																																																																																																																																																																				
その他の投資活動による収入	3	3	0																																																																																																																																																																																																				
財務活動による収入	2,187	2,173	△14																																																																																																																																																																																																				
長期借入による収入	1,360	1,346	△14																																																																																																																																																																																																				
金銭出資の受入による収入	827	827	0																																																																																																																																																																																																				
前年度からの繰越金	6,067	6,588	521																																																																																																																																																																																																				
資金支出	35,713	30,790	△4,923																																																																																																																																																																																																				
業務活動による支出	20,143	20,494	351																																																																																																																																																																																																				
給与費支出	10,077	10,134	57																																																																																																																																																																																																				
材料費支出	6,050	6,419	369																																																																																																																																																																																																				
その他の業務活動による支出	4,016	3,941	△75																																																																																																																																																																																																				
投資活動による支出	14,125	8,851	△5,274																																																																																																																																																																																																				
有形固定資産の取得による支出	2,314	2,386	72																																																																																																																																																																																																				
無形固定資産の取得による支出	0	757	757																																																																																																																																																																																																				
有価証券の取得による支出	10,000	2,798	△7,202																																																																																																																																																																																																				
定期預金の預入による支出	1,800	2,900	1,100																																																																																																																																																																																																				
その他の投資活動による支出	11	10	△1																																																																																																																																																																																																				
財務活動による支出	1,445	1,445	0																																																																																																																																																																																																				
長期借入の返済による支出	817	817	0																																																																																																																																																																																																				
移行前地方債償還債務等の償還による支出	628	628	0																																																																																																																																																																																																				
翌年度への繰越金	6,324	5,887	△437																																																																																																																																																																																																				

第3期中期計画（平成28年度～令和元年度）		令和元年度計画		令和元年度実績【実施状況及び業務運営の状況】		評価の視点	自己 評定	評定の理由等		H30 評定	評定	設立団体の評価	
第 5 短期借入金の限度額		第 4 短期借入金の限度額											
1 限度額 4, 0 0 0百万円		1 限度額 4, 0 0 0百万円		短期借入金の実績なし		◇短期借入金の額はどのくらいか。	A	▽同左		S			
2 想定される短期借入金の発生理由 賞与の支給等による一時的な資金不足への対応		2 想定される短期借入金の発生理由 賞与の支給等による一時的な資金不足への対応											
第6 出資等に係る不要財産又は出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産がある場合には、当該財産の処分に関する計画													
なし							-			-			
第7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画													
なし							-			-			
第 8 剰余金の使途		第 5 剰余金の使途											
決算において剰余が生じた場合は、病院施設の整備・修繕、医療機器の購入等に充てる。		決算において剰余が生じた場合は、病院施設の整備・修繕、医療機器の購入等に充てる。		決算剰余金については、建設改良積立金に充当し将来の施設整備及び医療機器の整備に備えた。		◇剰余金は病院施設の整備等に充てたか。	A	▽同左		S			
第9 料金に関する事項		第 6 料金に関する事項											
1 使用料及び手数料		1 使用料及び手数料											
① 病院を利用する者からは、使用料を徴収する。 ② 料金の額は、診療報酬の算定方法（平成20年厚生労働省告示第59号）、入院時食事療養費に係る食事療養及び入院時生活療養費に係る生活療養の費用の額の算定に関する基準（平成18年厚生労働省告示第99号）、後期高齢者医療の食事療養標準負担額及び生活療養標準負担額（平成19年厚生労働省告示第395号）の規定により算定した額（以下「告示等による算定額」という。）並びに指定居宅サービスに要する費用の額の算定に関する基準（平成12年厚生省告示第19号）、指定居宅介護支援に要する費用の額の算定に関する基準（平成12年厚生省告示第20号）、厚生労働大臣が定める一単位の単価（平成27年厚生労働省告示第93号）及び指定介護予防サービスに要する費用の額の算定に関する基準（平成18年厚生労働省告示第127号）の規定により算定した額とする。 ③ 前項の規定にない使用料及び手数料の額は、次に定めるところによる。 ・山形労働局、地方公務員災害補償基金山形県支部その他の団体等との間における診療契約によるものについては、その契約の定める額とする。 ・前号以外にあっては、理事長が別に定める額とする。		① 病院を利用する者からは、使用料を徴収する。 ② 料金の額は、以下に掲げる告示等により算定した額とする。 ・診療報酬の算定方法（平成20年厚生労働省告示第59号） ・入院時食事療養費に係る食事療養及び入院時生活療養費に係る生活療養の費用の額の算定に関する基準（平成18年厚生労働省告示第99号） ・後期高齢者医療の食事療養標準負担額及び生活療養標準負担額（平成19年厚生労働省告示第395号） ・指定居宅サービスに要する費用の額の算定に関する基準（平成12年厚生省告示第19号） ・指定居宅介護支援に要する費用の額の算定に関する基準（平成12年厚生省告示第20号） ・厚生労働大臣が定める一単位の単価（平成27年厚生省告示第93号） ・指定介護予防サービスに要する費用の額の算定に関する基準（平成18年厚生労働省告示第127号） ・生活保護法による保護の実施要領について（昭和38年社発第246号厚生省社会局長通知） ・生活保護法による医療扶助運営要領について（昭和36年社発第727号厚生省社会局長通知） ③ 前項の規定にない使用料及び手数料の額は、次に定めるところによる。 ・山形労働局、地方公務員災害補償基金山形県支部その他の団体等との間における診療契約によるものについては、その契約の定める額とする。 ・前号以外にあっては、理事長が別に定める額とする。		地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構使用料及び手数料規程に基づき使用料を徴収を行った。 料金の額は、計画に記載の基準等の規定により算定した額とした。 計画に記載の契約等による額とした。		◇使用料を適切に徴収したか。	B	▽同左		B			

第3期中期計画（平成28年度～令和元年度）		令和元年度計画		令和元年度実績【実施状況及び業務運営の状況】		評価の視点	自己 評定	評定の理由等		H30 評定	評定	設立団体の評価																																													
2 使用料及び手数料の減免		2 使用料及び手数料の減免																																																							
理事長が、特別の事情があると認めたときは、使用料及び手数料の全部又は一部を減免することができるものとする。		理事長が、特別の事情があると認めたときは、使用料及び手数料の全部又は一部を減免することができるものとする。			該当なし		◇規定に基づき適正に 処理したか。	B	▽同左		B																																														
		第 7 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項																																																							
1 人事に関する事項		1 人事に関する事項																																																							
① 今後の医療需要の変化や医療政策の動向等を踏まえ、戦略的に医療従事者の確保・育成に努める。		(1)今後の医療需要の変化や医療政策の動向等を踏まえ、戦略的に医療従事者の確保・育成に努める。			職員採用を計画的に実施し医療従事者の確保に努めた。 【実績】採用者人数(令和元年度採用試験) <table><tr><td>区 分</td><td>令和2年4月採用</td><td>中途採用</td><td>計</td></tr><tr><td>看護師</td><td>39名</td><td>1名</td><td>40名</td></tr><tr><td>薬剤師</td><td>2名</td><td>—</td><td>2名</td></tr><tr><td>臨床検査技師</td><td>3名</td><td>—</td><td>3名</td></tr><tr><td>臨床工学技士</td><td>—</td><td>1名</td><td>1名</td></tr><tr><td>理学療法士</td><td>4名</td><td>—</td><td>4名</td></tr><tr><td>管理栄養士</td><td>1名</td><td>—</td><td>1名</td></tr><tr><td>歯科衛生士</td><td>1名</td><td>—</td><td>1名</td></tr><tr><td>社会福祉士</td><td>—</td><td>1名</td><td>1名</td></tr><tr><td>事務職</td><td>4名</td><td>1名</td><td>5名</td></tr><tr><td>計</td><td>54名</td><td>4名</td><td>58名</td></tr></table>		区 分	令和2年4月採用	中途採用	計	看護師	39名	1名	40名	薬剤師	2名	—	2名	臨床検査技師	3名	—	3名	臨床工学技士	—	1名	1名	理学療法士	4名	—	4名	管理栄養士	1名	—	1名	歯科衛生士	1名	—	1名	社会福祉士	—	1名	1名	事務職	4名	1名	5名	計	54名	4名	58名	◇戦略的に医療従事者の確保・育成に努めたか。	B	▽職員募集活動として、看護師サマーセミナーを行った。また、看護師採用学校訪問や医療技術者採用学校説明会を行い医療従事者の確保に努めた。		B		
区 分	令和2年4月採用	中途採用	計																																																						
看護師	39名	1名	40名																																																						
薬剤師	2名	—	2名																																																						
臨床検査技師	3名	—	3名																																																						
臨床工学技士	—	1名	1名																																																						
理学療法士	4名	—	4名																																																						
管理栄養士	1名	—	1名																																																						
歯科衛生士	1名	—	1名																																																						
社会福祉士	—	1名	1名																																																						
事務職	4名	1名	5名																																																						
計	54名	4名	58名																																																						
② 能力や経験等を適切に評価し、特に優れた職員を積極的に昇任させるなど、モチベーションの向上を図るとともに、将来の病院運営を担う人材を育成する。		(2)能力や経験等を適切に評価し、特に優れた職員を積極的に昇任させるなど、モチベーションの向上を図るとともに、将来の病院運営を担う人材を育成する。			認定看護師や専門薬剤師等への手当支給など職員のモチベーションの向上を図り、看護師特定行為研修や、認定看護師資格の取得など人材育成に努めている。 【実績】認定看護師、専門薬剤師内訳 <table><tr><td>区 分</td><td>人 数</td></tr><tr><td>認定看護師数</td><td>21名</td></tr><tr><td>専門看護師数</td><td>1名</td></tr><tr><td>専門薬剤師数</td><td>7名</td></tr></table>		区 分	人 数	認定看護師数	21名	専門看護師数	1名	専門薬剤師数	7名	◇職員のモチベーションの向上を図るとともに、病院運営を担う人材を育成したか。	B	▽職員のモチベーションの向上及び人材育成に努めた。		B																																						
区 分	人 数																																																								
認定看護師数	21名																																																								
専門看護師数	1名																																																								
専門薬剤師数	7名																																																								

第3期中期計画（平成28年度～令和元年度）	令和元年度計画	令和元年度実績【実施状況及び業務運営の状況】	評価の視点	自己 評価	評価の理由等	H30 評価	評価	設立団体の評価																				
2 職員の就労環境の整備に関する事項	2 職員の就労環境の整備に関する事項																											
① 職員一人ひとりが、それぞれの分野で専門知識や能力を十分に発揮できるよう、多職種によるチーム医療を推進する。	(1)職員一人ひとりが、それぞれの分野で専門知識や能力を十分に発揮できるよう、多職種によるチーム医療を推進する。	認知症ケアチームや周術期管理チームの発足、がんサーボードの開催など、多職種によるチーム医療を推進した。	◇多職種によるチーム医療を推進したか。	B	▽多職種によるチーム医療の推進に努めた。	A																						
② 職員の心理的負担を把握するため、必要に応じ面接指導を行うなど、メンタルヘルス対策の充実を図る。	(2)職員の心理的負担を把握するため、ストレスチェック後の面接指導や、超過勤務が月80時間を越える職員への指導及び産業医との面談の勧奨により、メンタルヘルス対策の充実を図る。	職員へのストレスチェック後の面接指導の実施や「職場環境改善に関する意見書」を所属部門に提出し、メンタルヘルス対策の充実を図った。	◇メンタルヘルス対策の充実を図ったか。	B	▽80時間超えの面談の勧奨に加え、100時間超えは面談必須とし対策の充実に努めた。 【実績】延べ面談者数 67名	B																						
③ 不適切な言動、行為等に起因する、職員の精神的・身体的損害及び生産性の低下を防止するため、ハラスメントの相談窓口の充実を図る。	(3)不適切な言動、行為等に起因する、職員の精神的・身体的損害及び生産性の低下を防止するため、ハラスメント研修を実施し職員の教育を徹底するとともに、相談窓口を設置する。	ハラスメント対策の充実を図るため、相談窓口による対応を行った。	◇ハラスメントの相談窓口の充実を図ったか。	B	▽ハラスメント対策の充実を図るため、相談窓口設置の周知に努めた。	B																						
④ 院内保育所の24時間対応や病児・病後児保育を継続するなど、職員が業務に専念できるよう就労環境の向上に努める。	(4)院内保育所の24時間保育や病児・病後児保育を継続するなど、職員が業務に専念できるよう就労環境の向上に努める。	院内保育所「あきほ保育園」では、24時間保育（年末・年始除く）を実施した。また、病児・病後児保育事業を酒田市から継続して受託し、当該事業を活用し職員の就労環境の向上に努めた。 【実績】院内保育所「あきほ保育園」利用者数 <table><tr><td>区 分</td><td>平成28年度</td><td>平成29年度</td><td>平成30年度</td><td>令和元年度</td></tr><tr><td>利用者実数</td><td>28名</td><td>29名</td><td>29名</td><td>34名</td></tr></table> 【実績】院内保育所「あきほ保育園」終夜保育利用者数 <table><tr><td>区 分</td><td>平成28年度</td><td>平成29年度</td><td>平成30年度</td><td>令和元年度</td></tr><tr><td>利用延べ人数</td><td>4名</td><td>4名</td><td>28名</td><td>85名</td></tr></table>	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	利用者実数	28名	29名	29名	34名	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	利用延べ人数	4名	4名	28名	85名	◇24時間保育の実施など、職員の就労環境の向上に努めたか。	B	▽院内保育所を運営し、職員の就労環境の向上に努めている。	B		
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																								
利用者実数	28名	29名	29名	34名																								
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																								
利用延べ人数	4名	4名	28名	85名																								

第3期中期計画（平成28年度～令和元年度）	令和元年度計画	令和元年度実績【実施状況及び業務運営の状況】	評価の視点	自己 評価	評価の理由等	H30 評価	評価	設立団体の評価																																		
3 医療機器・施設整備に関する事項	3 医療機器・施設整備に関する事項（日本海総合病院）																																									
① 費用対効果、地域の医療需要、他の機関との機能分担、医療技術の進展などを総合的に判断して整備する。	(1)費用対効果、地域の医療需要、他の機関との機能分担、医療技術の進展などを総合的に判断して整備する。	高度医療機器においては、費用対効果、地域の医療需要、他の機関との機能分担、医療技術の進展などを総合的に判断し更新及び整備を行った。	◇医療技術の進展などを総合的に判断して整備したか。	B	▽同左	B																																				
② 平成26年度に実施した建物診断の結果に基づき、老朽化が著しく、緊急度が高い設備等を優先して、計画的に修繕を行う。	(2)日本海総合病院は、平成26年度に実施した建物診断の結果に基づき、老朽化が著しく、緊急度が高い設備等を優先して、計画的に修繕を行う。	建物診断の結果に基づき策定した中長期修繕計画に従い、緊急度が高い設備の修繕工事を以下のとおり行った。 <table><tr><th colspan="3">【実績】修繕工事</th></tr><tr><th>工事名</th><th>契約額(円)</th><th>概要</th></tr><tr><td>空調機ユニット更新工事(3基)</td><td>48,400,000</td><td rowspan="3">耐用年数の超過及び塩害等による劣化</td></tr><tr><td>ファンコイルユニット交換工事(100台)</td><td>41,690,000</td></tr><tr><td>高圧電気設備更新工事(遮断器等)</td><td>68,941,400</td></tr></table>	【実績】修繕工事			工事名	契約額(円)	概要	空調機ユニット更新工事(3基)	48,400,000	耐用年数の超過及び塩害等による劣化	ファンコイルユニット交換工事(100台)	41,690,000	高圧電気設備更新工事(遮断器等)	68,941,400	◇建物総合診断を踏まえ、計画的に修繕を行ったか。	B	▽同左	B																							
【実績】修繕工事																																										
工事名	契約額(円)	概要																																								
空調機ユニット更新工事(3基)	48,400,000	耐用年数の超過及び塩害等による劣化																																								
ファンコイルユニット交換工事(100台)	41,690,000																																									
高圧電気設備更新工事(遮断器等)	68,941,400																																									
③ 高額な医療機器等の更新及び整備については、償還等の負担を十分に考慮し、中長期的な投資計画(整備計画)のもとに行う。 <table><tr><th colspan="3">【中期計画期間に係る医療機器・施設整備に関する計画】(単位:百万円)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>予定額</th><th>財 源</th></tr><tr><td>資本支出</td><td></td><td></td></tr><tr><td>建設改良費</td><td>3,904</td><td rowspan="4">設立団体からの 長期借入金等</td></tr><tr><td>施設整備</td><td>920</td></tr><tr><td>医療機器等</td><td>2,984</td></tr><tr><td>電子カルテ更新等</td><td></td></tr></table>	【中期計画期間に係る医療機器・施設整備に関する計画】(単位:百万円)			区 分	予定額	財 源	資本支出			建設改良費	3,904	設立団体からの 長期借入金等	施設整備	920	医療機器等	2,984	電子カルテ更新等		(3)高額な医療機器等の更新及び整備については、償還等の負担を十分に考慮し、中長期的な投資計画(整備計画)のもとに行う。 <table><tr><th colspan="3">【医療機器・施設整備の計画(単位:百万円)】</th></tr><tr><th>区 分</th><th>予定額</th><th>財 源</th></tr><tr><td>資本支出</td><td></td><td></td></tr><tr><td>建設改良費</td><td>2,573</td><td rowspan="4">設立団体からの 長期借入金等</td></tr><tr><td>施設整備</td><td>1,169</td></tr><tr><td>医療機器等</td><td>1,404</td></tr></table>	【医療機器・施設整備の計画(単位:百万円)】			区 分	予定額	財 源	資本支出			建設改良費	2,573	設立団体からの 長期借入金等	施設整備	1,169	医療機器等	1,404	高額な医療機器等の更新及び整備については、償還等の負担を十分に考慮し、中長期的な投資計画(整備計画)のもとに行った。	◇中長期的な投資計画(整備計画)のもとに行ったか。	B	▽同左	B		
【中期計画期間に係る医療機器・施設整備に関する計画】(単位:百万円)																																										
区 分	予定額	財 源																																								
資本支出																																										
建設改良費	3,904	設立団体からの 長期借入金等																																								
施設整備	920																																									
医療機器等	2,984																																									
電子カルテ更新等																																										
【医療機器・施設整備の計画(単位:百万円)】																																										
区 分	予定額	財 源																																								
資本支出																																										
建設改良費	2,573	設立団体からの 長期借入金等																																								
施設整備	1,169																																									
医療機器等	1,404																																									
④ 日本海八幡クリニック等診療所については、酒田市と協議を行いながら医療機器・施設整備を図る。	(4)日本海八幡クリニック等診療所については、酒田市と協議を行いながら医療機器・施設の整備を図る。		日本海八幡クリニック等診療所での医療機器・施設の整備等はなかった。	－	－	▽同左	－																																			
	(5)地域の医療ニーズに対応するため、今後の診療提供体制の整備等について検討する。	地域の医療ニーズに対応するため、外来部門に面談室を設けるなど、診療提供体制の整備を行った。	◇医療ニーズに対応するため、診療提供体制の整備等について検討したか。	B	▽面談室を活用することにより、外来において多職種の連携による患者へのサポート体制の充実が図られた。	B																																				
4 法人が負担する債務の償還に関する事項																																										
				－		－																																				
5 積立金の使途	4 積立金の使途																																									
前期中期目標期間の繰越積立金は、施設の整備、医療機器の購入等に充てる。	前期中期目標期間の繰越積立金は、施設の整備、医療機器の購入等に充てる。	前期中期目標期間の繰越積立金は、施設の整備、医療機器の購入等に充てた。	◇施設の整備、医療機器の購入等に充てたか。	B	▽同左	B																																				

第3期中期計画（平成28年度～令和元年度）	令和元年度計画	令和元年度実績【実施状況及び業務運営の状況】	評価の視点	自己 評価	評価の理由等	H30 評価	評価	設立団体の評価																													
6　　その他法人の業務運営に関する事項	5　　その他法人の業務運営に関する事項																																				
①　酒田市、公益財団法人やまがた健康推進機構及び診療所等との連携、機能分担のもと、がん検診をはじめ地域の検診体制の充実を図る。	(1)日本海総合病院は、酒田市、公益財団法人やまがた健康推進機構及び診療所等との連携、機能分担のもと、がん検診をはじめ地域の検診体制の充実を図る。	(1)酒田市、公益財団法人やまがた健康推進機構及び開業医等との連携のもと、がん検診をはじめ地域の検診実施体制の充実を図っている。 酒田市が実施している「内視鏡ドック」のうち、胸部CT、上部内視鏡検査、下部内視鏡検査を担っている。また、酒田市へのふるさと納税の返礼品として、納税額に応じた3種類の人間ドックを実施している。 【実績】検診等 <table><tr><td>区　分</td><td>平成30年度</td><td>令和元年度</td></tr><tr><td>内視鏡ドック</td><td>97件</td><td>93件</td></tr><tr><td>PET/CT検診</td><td>89件</td><td>47件</td></tr></table> 【実績】ふるさと納税 <table><tr><td>区　分</td><td>平成28年度</td><td>平成29年度</td><td>平成30年度</td><td>令和元年度</td></tr><tr><td>1泊2日（ドック）</td><td>2名</td><td>0名</td><td>0件</td><td>1件</td></tr><tr><td>2泊3日（ドック、PET）</td><td>2名</td><td>0名</td><td>0件</td><td>0件</td></tr><tr><td>PET/CT（半日）</td><td>10名</td><td>1名</td><td>2件</td><td>2件</td></tr></table>	区　分	平成30年度	令和元年度	内視鏡ドック	97件	93件	PET/CT検診	89件	47件	区　分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	1泊2日（ドック）	2名	0名	0件	1件	2泊3日（ドック、PET）	2名	0名	0件	0件	PET/CT（半日）	10名	1名	2件	2件	◇公益財団法人やまがた健康推進機構等と連携し、検診体制の充実を図ったか。	B	▽がん検診をはじめ地域の検診体制の充実を図った。	B		
区　分	平成30年度	令和元年度																																			
内視鏡ドック	97件	93件																																			
PET/CT検診	89件	47件																																			
区　分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																	
1泊2日（ドック）	2名	0名	0件	1件																																	
2泊3日（ドック、PET）	2名	0名	0件	0件																																	
PET/CT（半日）	10名	1名	2件	2件																																	
②　病児・病後児保育については、「庄内北部定住自立圏形成協定」により、酒田市以外に在住の乳幼児等も受け入れる。	(2)病児・病後児保育については、「庄内北部定住自立圏形成協定」により、酒田市以外に在住の乳幼児等も受け入れる。また、定員を3名から9名に増員し、事前に医療機関の診察を受けていない利用者の受入れ及び保育園等からの送迎サービスを実施する。	(2)病児・病後児保育事業を酒田市から受託し、「庄内北部定住自立圏形成協定」により三川町、庄内町及び遊佐町に在住の乳幼児等も受け入れる体制を整え、日曜日、祝日、年末年始休業(12/29～1/3)を除き、継続して通年で事業を実施した。また、定員を3名から9名に増員し、事前に医療機関の診察を受けていない利用者の受診付添いサービス及び保育園等からの病児送迎サービスを実施した。 【実績】受診付添いサービス等利用者 <table><tr><td>区　分</td><td>利用者数</td></tr><tr><td>受診付添いサービス</td><td>6名</td></tr><tr><td>病児送迎サービス</td><td>2名</td></tr></table> ※令和元年度から開始	区　分	利用者数	受診付添いサービス	6名	病児送迎サービス	2名	◇病児・病後児事業を受託し、酒田市以外の乳幼児の受け入れを行ったか。	B	▽同左	B																									
区　分	利用者数																																				
受診付添いサービス	6名																																				
病児送迎サービス	2名																																				

令和元年度地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構
決算(4月～3月)の概況について【速報値】

1 患者動向について

【日本海総合病院】
延入院患者数は186,991人(1日当たり510.9人)で3,624人減少、延外来患者数は342,371人(1日当たり1420.6人)で1,719人減少した。入院患者については、病床稼働率が81.1%で1.8ポイント減少し、平均在院日数は11.5日で0.1日長くなった。延入院患者数の減少は、日帰り手術センターの設置に伴い、水晶体再建術を入院から外来にシフトしたことが主な要因の1つと考えられる。延外来患者数の減少は、外来診療実日数が前年度より3日少ないことが主な要因と考えられる。
【日本海酒田リハビリテーション病院】
延入院患者数は34,696人(1日当たり94.8人)で2,237人減少した。入院患者については、病床稼働率が83.2%で5.6ポイント減少し、平均在院日数は50.1日で9.0日短くなった。延外来患者数は243人(1日当たり1.0人)で114人減少した。延通所リハビリテーション利用者数は4,091人(1日当たり17.0人)で220人増加した。延入院患者数の減少は、平均在院日数が前年度より9日短縮したことが要因と考えられる。延通所リハビリテーション利用者数の増加は、6月から定員を20名から30名に増員したことが主な要因の1つと考えられる。
【診療所】
延外来患者数は診療所合計21,310人で623人減少した。内訳は、日本海八幡クリニックが17,038人(1日当たり60.9人)、松山診療所が3,732人(1日当たり17.6人)、飛島診療所が540人(1日当たり3.2人)だった。延訪問看護利用者数は3,842人(1日当たり12.1人)で1,105人増加した。延訪問看護利用者数の増加は、日本海ヘルスケアネット参加法人である宏友会の訪問看護事業を移管統合したことが主な要因と考えられる。
【全体】
延入院患者数は221,687人(1日当たり605.7人)で5,861人減少、新入院患者数は16,968人で323人減少した。また、延外来患者数は363,924人(1日当たり1,503.3人)で2,456人減少、新外来患者数は29,512人で278人増加した。

【患者動向】

区 分	日本海総合病院			酒田リハビリ病院			診療所			計		
	H30	R1	増減	H30	R1	増減	H30	R1	増減	H30	R1	増減
延入院患者数(人)	190,615	186,991	△ 3,624	36,933	34,696	△ 2,237	-	-	-	227,548	221,687	△ 5,861
新入院患者数(人)	16,665	16,278	△ 387	626	690	64	-	-	-	17,291	16,968	△ 323
入院/1日(人)	522.2	510.9	△ 11.3	101.2	94.8	△ 6.4	-	-	-	623.4	605.7	△ 17.7
病床稼働率(%)	82.9	81.1	△ 1.8	88.8	83.2	△ 5.6	-	-	-	-	-	-
病床回転率(%)	266.8	265.2	△ 1.6	51.5	60.9	9.4	-	-	-	-	-	-
平均在院日数(日)	11.4	11.5	0.1	59.1	50.1	△ 9.0	-	-	-	-	-	-
延外来患者数(人)	344,090	342,371	△ 1,719	357	243	△ 114	21,933	21,310	△ 623	366,380	363,924	△ 2,456
新外来患者数(人)	27,914	28,225	311	36	16	△ 20	1,284	1,271	△ 13	29,234	29,512	278
外来/1日(人)	1,410.2	1,420.6	10.4	1.5	1.0	△ 0.5	79.7	81.7	2.0	1,491.4	1,503.3	11.9
延通所リハ利用者数(人)	-	-	-	3,871	4,091	220	-	-	-	3,871	4,091	220
通所リハ/1日(人)	-	-	-	15.9	17.0	1.1	-	-	-	15.9	17.0	1.1
延訪問看護利用者数(人)	-	-	-	-	-	-	2,737	3,842	1,105	2,737	3,842	1,105
訪問看護/1日(人)	-	-	-	-	-	-	8.9	12.1	3.2	8.9	12.1	3.2
病床数	630	630	0	114	114	0	-	-	-	744	744	0

2 収支について

【日本海総合病院】
入院収益は、132億68百万円で1億94百万円増加した。主な要因としては、延入院患者数が前年同期比で3,624人減少したものの、DPC係数の改定、手術支援ロボットの導入、薬剤指導の充実等に伴い患者1人1日当たりの診療単価が前年同期比で2,368円増加したことが挙げられる。
外来収益は、57億88百万円で3億28百万円増加した。延外来患者数が前年同期比で1,719人減少したものの、日帰り手術センターの設置や高額ながん治療薬処方の増加等に伴い患者1人1日当たりの診療単価が前年同期比で1,035円増加したことが要因に挙げられる。
営業費用については、高額ながん治療薬処方の増加等に伴い材料費が5億29百万円増加した。また、施設改修や医療機器購入、電子カルテ更新等に伴い固定資産が増加したことにより、減価償却費が1億57百万円増加した。営業外費用については、消費税増税に伴い、消費税支払い分である雑支出が1億1百万円増加した。
総収益211億60百万円に対し総費用206億43百万円で、当期純利益は5億17百万円となった。
また、中期計画にある剰余金の使途（その他設備及び医療機器等の修繕）に沿って発生した費用1億13百万円を前中期目標繰越積立金から取崩したため、総利益は6億30百万円となり、前年同期比で1億80百万円減少した。
【日本海酒田リハビリテーション病院】
入院収益は、10億24百万円で55百万円減少した。主な要因としては、患者1人1日当たりの診療単価が前年同期比で302円増加したものの、延入院患者数が前年同期比で2,237人減少し、回復期病棟での疾患別リハビリテーション料の算定数が減少したこと等が挙げられる。
その他営業収益は、延通所リハビリテーション利用者が前年同期比で220人増加したことから3百万円増加した。
営業費用については、修繕費等の増加により経費が7百万円増加した。引当金は、退職給付引当金や賞与引当金が合わせて6百万円増加した。
総収益12億1百万円に対し総費用13億35百万円で、当期純損失は1億24百万円となり、前年同期比で36百万円増加した。

【診療所】

外来収益は診療所合計1億58百万円で8百万円減少した。内訳は日本海八幡クリニックが1億10百万円、松山診療所が45百万円、飛島診療所が3百万円だった。一方、訪問看護は、宏友会の訪問看護事業を移管統合による利用者数の増加に伴い、収益が前年同期比で、12百万円増収となった。

総収益3億57百万円に対し総費用3億1百万円で、当期純利益は56百万円となり、前年同期比で25百万円増加した。

【全体】

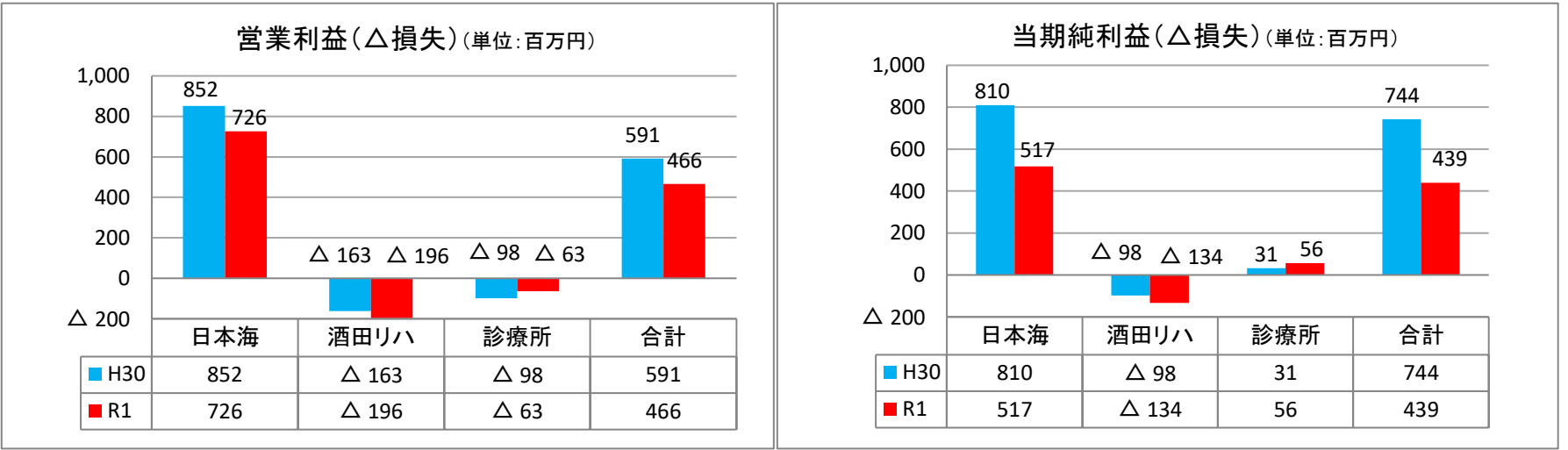
営業収益は、入院収益が142億92百万円（前年同期比1億39百万円増加）、外来収益が59億48百万円（前年同期比3億19百万円増加）となった。

営業費用は、給与費が89億72百万（前年同期比88百万減）、材料費が59億71百万円（前年同期比5億24百万円増加）、経費が30億72百万円（前年同期比17百万円増加）となった。

運営費負担金は、地方財政計画単価の改定等により、営業収益で6百万円増加、営業外収益で28百万円減少した。

総収益227億18百万円に対し総費用222億79百万円で、当期純利益は4億39百万円となった。

また、剰余金の使途に沿って発生した費用1億13百万円を前中期目標繰越積立金から取崩したため、総利益は5億52百万円となり、前年同期比で1億92百万円減少した。



【患者1人1日当たりの診療単価(税抜)】

単位:円

日本海総合病院	H30	R1	増減	酒田リハビリ病院	H30	R1	増減	診療所	H30	R1	増減
入院	68,587	70,955	2,368	入院	29,212	29,514	302	入院	-	-	-
外来	15,869	16,904	1,035	外来	6,363	7,662	1,299	外来	7,591	※ 7,431	△ 160

※八幡(6,479円) 松山(12,008円) 飛島(5,780円)

【損益計算書】

単位:百万円

区 分		日本海総合病院			酒田リハビリ病院			診療所			計		
		H30	R1	増減	H30	R1	増減	H30	R1	増減	H30	R1	増減
営業収益	入院収益	13,074	13,268	194	1,079	1,024	△ 55	0	0	0	14,153	14,292	139
	外来収益	5,460	5,788	328	2	2	0	166	158	△ 8	5,629	5,948	319
	その他営業収益	521	534	13	51	54	3	36	50	14	607	639	32
	運営費負担金収益	576	579	3	17	19	2	17	19	2	610	616	6
	資産見返戻入	8	9	1	0	0	0	0	0	0	8	9	1
	計	19,638	20,177	539	1,149	1,099	△ 50	219	228	9	21,007	21,504	497
営業外収益		983	965	△ 18	101	101	0	133	129	△ 4	1,217	1,196	△ 21
(うち運営費負担金収益)		783	760	△ 23	93	90	△ 3	123	120	△ 3	998	970	△ 28
臨時利益		13	18	5	1	1	0	6	0	△ 6	20	18	△ 2
合 計		20,634	21,160	526	1,251	1,201	△ 50	359	357	△ 2	22,244	22,718	474
営業費用	給与費	8,129	8,069	△ 60	770	750	△ 20	161	153	△ 8	9,060	8,972	△ 88
	材料費	5,382	5,911	529	24	22	△ 2	41	37	△ 4	5,447	5,971	524
	経費	2,688	2,706	18	286	293	7	81	73	△ 8	3,055	3,072	17
	減価償却費	1,309	1,466	157	90	83	△ 7	14	13	△ 1	1,413	1,562	149
	引当金繰入	1,018	1,034	16	136	142	6	19	15	△ 4	1,173	1,190	17
	その他費用	260	266	6	6	5	△ 1	1	1	0	267	271	4
計		18,786	19,451	665	1,312	1,296	△ 16	317	291	△ 26	20,415	21,038	623
営業外費用		1,023	1,124	101	36	39	3	11	10	△ 1	1,069	1,172	103
臨時損失		15	68	53	1	0	△ 1	0	0	0	15	69	54
合 計		19,824	20,643	819	1,349	1,335	△ 14	328	301	△ 27	21,500	22,279	779
営業利益(△損失)		852	726	△ 126	△ 163	△ 196	△ 33	△ 98	△ 63	35	591	466	△ 125
経常利益(△損失)		812	568	△ 244	△ 98	△ 134	△ 36	25	56	31	739	490	△ 249
当期純利益(△損失)		810	517	△ 293	△ 98	△ 134	△ 36	31	56	25	744	439	△ 305
目的積立金取崩額		0	113	113	0	0	0	0	0	0	0	113	113
当期総利益(△損失)		810	630	△ 180	△ 98	△ 134	△ 36	31	56	25	744	552	△ 192

(注) 区分毎、病院毎に四捨五入しているため合計額が一致しない項目がある。